明治卅五年三月廿七日　第三種郵便物認可

愛國婦人

明治四十二年三月五日發行　每月二回(五日・廿日)發行　電話番町千七百四十五番　同五百二十番　振替貯金口座一一三八一番

社説

虛榮心

井出曙覽の歌に「蟻と蟻うなづきあひて何か事、ありげに走る西と東へ」といふがあり。つらく婦人の道行くさまを見るに、行違ひに、後振り向きて、互に、着物、髮形などを見かへらざるはなし。その事、知ると知らざるとを問はず。又下女、子守、女學生、奧樣の區別なく、皆然らざるはなし、男子になくして、ただ婦人にあり。婦人は蟻にも似たるかな。男子の本領は、着物や髮形にあらずして、其腕前にあり。如何なる學問を有し、如何なる技倆を有するかゞ、男子の値打を定むるにて、外形などは、何うてもよきなり。さればもし、男子にして、着物を着飾り、髮を氣にして、見てくれの風をするものあらば、心あるものは、それを排斥して、彼れは、男娼のなり損ひなり、女の腐つたのなり、性根を入れてやらんとて、横面の一つも、はつてやりたくなるなり。然るに從來の婦人には、腕や頭の人間の眞價を以て、競ふものなきの悲しさ、見てくれは、着物や髮形ばかりにて、婦人の大事これなりと、一生懸命にて、飾りめかすこそ氣の毒なれ。從つて、婦人が着物などにて、恥をかくてとは、男子が仕事の上にて恥をかくと同樣にて、殘念てたまらず、三度の食事は、二度にしても、好い着物が着たきなり。婦人の虛榮心とは、即ちこの事なり。されば、交際の會などありて、出ねばならぬときは、その時のめかし方が苦になりて、何時もあの着物では出られぬとか、あの指環ばかりては恥しいとかいひて、十日も廿日も前からの大騷動、實際困つたものなり。婦人のその虛榮心を飲み込める商人は、流行と稱へて、時々柄形を變へるより、前のは舊くなつたとて、どん〱新しきものを買ふより、溜まりたまりて、簞笥の中には不用の着物の死骸が一ぱいなり。入らぬ着物を簞笥に寢かして置くその金を、銀行にても預け置かは、まさかの時に役に立たんにと、思はるゝことなり。お蔭て反物屋寶石商などは、流行その圖に當りて、釣れ盛りの釣魚の如く、婦人の來ること、面白いほどなり。買ふ本人はそれてよからんも、買はさるゝ男子はたまらず。會計に無理がてき、穴がてきて、執達吏のお世話に預ること間違なし　質に入れるために、着物や指環を買ひ置きたる、用意周到といふべし。

男子は、脫げば取れ、外づせは取れる着物や指環を見せるために、交際はせず。又めかしたりとて、見向きもするものにあらず。今少し大切の用事あればなり。婦人の交際は、これを見せつけるが見當てにて、用事は付けたりなり。されば交際しても、精神上何等の得る所なく、また夫や親に强請りの種を持ち歸るのみ。婦人は入らぬ物買ひの親玉なり。この癖が止まねば、勤儉の何のと言ふたりとて、駄目のことゝ知るべし。

婦人の虛榮心は、外形を構ふ位に止まらず、中々念入りにて、結婚などにも附き纏ふものなり。十七八の娘が、六七十のお爺さんの所に、嫁きたがるのも、つまりはそれなり。白髮は、添ひ遂げたる後の事にて、結婚當座のことにあらず。又純潔こそは、嫁入りの身上なるに、嫁入りの支度をするとて、貞操を汚すもあり。良からぬ心を起して人の物に手をかけ、生涯、人と名乘れぬもあり。本人の心からとはいへ、實に痛ましきことなり。これといふも、元は皆、虛榮心が仇をなすなり。恐るべく戒むべきは、虛榮心なるかな。

然らば、如何にして、婦人のこの虛榮心を除かぬまでも、減ずるを得るかといふに、そは教育を施すにあり。婦人を教育して、頭を作り、腕を仕上げて、身につける本當の値打を、吹けば飛ぶやうなる、果敢なき飾りに代へて、貴ぶやうせしむるにあり。人の精神は、外見よりも、貴きものなることが、よく納得てきれば、婦人なりとて、めかすことにのみ、うき身をやつすものにあらず。今日虛榮心のみ盛んなるは、畢竟なほ教育足らず、見への外に示すべきものなき證據なれは、婦人に十分の教育を與へ、自ら熱心に精神に硏きをかくることを心掛くべきなり。

愛讀諸君に

近頃往々愛讀諸君から、斯う云ふ御質問が參ります。

『愛國婦人は最早愛國婦人會と關係が無くなつたのか』

意外とも意外、飛んでも無いこと、愛國婦人雜誌は相變らず、愛國婦人會內愛國婦人發行所から發行され、その會計は愛國婦人會の會計監督に於て監督さるゝことになつて居ります。が、何うしてまた其樣なことをお尋ねになりまするのかと伺ひましたところ、此頃、その樣なことを一軒々々に云ひふらして步く人があるので、不思議に思つてお尋ね致したのであるが、貴所のお答て、云ひふらして步くものが、中傷的のことを云ふのだと能く解つて安心しました。と斯う答へられました。

實に意外なことではありますが。斯う云ふ御質問が、時々諸方から出まするし、中には此中傷的の言葉を信ぜられる方もあるやに聞き及んで居ります。誠に困つたことでは御坐いますが、斯う云ふことを云ひ觸らして步くのは何か爲めにする處があつてのことゝ思ひます。當方に於ても如何なるものが、其樣なことを云ひ觸らして步くのか取調べ、何とか處分を致しますが、愛讀諸君に於かれても何うか、斯る中傷的の言葉や人を信用せられないやう呉々もお願ひ致して置きます

愛國婦人會內
愛國婦人發行所

創刊明治卅五年三月廿七日●定價一部金三錢五厘
半年分金四十二錢●全國無郵送料●廣告料一行六十錢
發行所東京麴町區千々ヶ淵公園內愛國婦人發行所●
發行兼印刷人山澤俊夫●編輯者永持德一●全部禁轉載

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

娘を持てる母親の心得

山脇房子

▽家庭は女子の領分

女子は其體質より見るも、其性格より見るも——男子が外、社會の競爭場裡に活動すべきものなるに反し——內、家庭に在りて、其任務を盡すべきものなること疑ふべからず。

晩近、世上事物の進歩と共に、女子敎育も著るしき發展を致せり。而も女子敎育の進歩斯の如く著るしき狀況に達するに伴ひ、良妻賢母となるのみが女子の本分にあらずして、他に自ら獨立生活を營む必要ありと稱ふる論者、世上往々莫きにあらず。生存競爭の劇甚なる歐米諸國の如き、若くは、女子の數遙かに男子の數よりも多くして、一家に主婦たることの容易ならざる事情の下に在る諸國に於ては、止を得ずして女子が獨立生活を營むを餘儀なくせらるゝこともあるべし。されど、社會萬般の狀況、未だ斯の如くならざる吾が國の如き、數十年後は卒知らず近き將來に於て、斯る必迫せる現象の生ずべくも見えざるは、實に天與の幸福と云はざるべからず。

▽男女の分業は自然也

獨逸グ・ッチンゲン大學の敎授ウルダイエル氏は、

「自然が男女兩性を作りつるは、其間に分業をなさしめんが爲なり。故に吾人が此差を取消さんとするは宜しからず。即ち女子が幸福の爲めにも、國家保全の爲めにも、人生全般の福祉の爲めにも、女子固有の性質を保護し、維持せざるべからず。」

と云へり。若し女子にして、人の妻となりて一家庭の安寧幸福を維持増進する力なく、又、母となりて爲すべき責務を解せず——從ひて健康にして道德堅固なる女子を養成すること能はずとせば、これ、社會の一員として生存する資格なき者、即ち其責任を果さゞる點に於て、社會人類に用なきものと云はざるを得ざるなり。

▽崇高なる母親の天職

家庭が人の身體及び道德の基礎を形くる唯一の場處なることは云ふまでもなし。されば、其家庭だに健全ならば、從つて其裡に成長する子女は健全なる發達をなし、更に一國の運命に對し良好の影響を及すべきは必然のことに屬す。されば、母たるものは、社會人類の善否を左右するほどの重大なる責任を負へるや明かなるべし。而して此崇高なる天職を授けられて、これを完全に果せる時の滿足は、恐らく何物と雖も、これに比較し得るもの莫かるべし。

▽女子の本分は婚姻也

近來女子の權利問題に就き云々するものあり。されど、これ畢覺するに女子の社會に對する總ての權利、社會より受る總ての尊敬は、一に女子が此本務を盡すや否やに依り定まるものにして、自己の與へられたる本務を果さずよりは、如何に其權利を主張するも、決して得らるべきものにあらず。

前米國大統領ローズベルト氏曰く

「余は國民的生活の最上地位を占領すべき資格を有するものは母なりと信ず。婦人が如何に高等の敎育を受け、社會的事業に手腕を揮ひ天下に名を爲すとも、母の天職を認識し、之が宣揚を計るに比すれば、確に一段劣れるの感なくんばあらず。

世には卑怯にして、怠惰にして、忍耐なくして、確信なくして、自ら此崇高なる母の位置を輕んずるもの、近來少なからざるを見る。實に思はざるの甚だしきものにあらずやと。」

墺國なる維納大學の敎授クラフトエビング氏は、

「近時女子敎育が其方法を誤りし爲めに、女子自身の心身の發達を害するのみならず、其影響として、一家の和樂を妨げ社會の幸福をも傷く。故に女子の本分は婚姻なり。即ち女子は家婢となり、母となり、男子の同伴者となりて、兒女の敎育者とならざるべからず。然るに近時の女子敎育は、之れに關する注意を怠りし爲め、女子をして未來の母たる可き能力を缺損せしめたり」

と云へり。

▽女子敎育上今日の急務

又、聞く處に依れば、獨逸に於ても、此婦人學校なるものを高等女學校の上に設置し、一家に主婦として必要なる科目を撰びて授業することゝなれりと云ふ。畢覺ずるに、各國ともに敎育制度上に於ては種々多樣の變遷ありと雖も、今や女子には女子に適應する天職を完ふせしむべきものなることを、明かに認識せるに至りしものと信ず。

されば、吾が國の女子敎育に就きても殊更に論ずるまでもなく、女子必然の本務を果さしむるやう、同時にまた、其本務を果すに堪へ得るやう、充分にして且つ適切なる敎育を授くること、これ即ち今日の急務なりとす。

故に最後に、世の娘御を持たる、母親の方々に一言す。かへすがへすも、吾が國目下の狀況に於ては、家庭は飽までも女子の領分なること、男女分業の上に於ける自然なり。家庭を女子の領分とする爲めに、婚姻は女子の本分なり。崇高なる母親の天職を授けられたる自然に對し、その天職を發揮するには、總ての女子其本分として婚姻すべきものなりと。

隈々に残る寒さや梅の花　蕪村
もとかしき梅二三日の寒み哉　曉臺

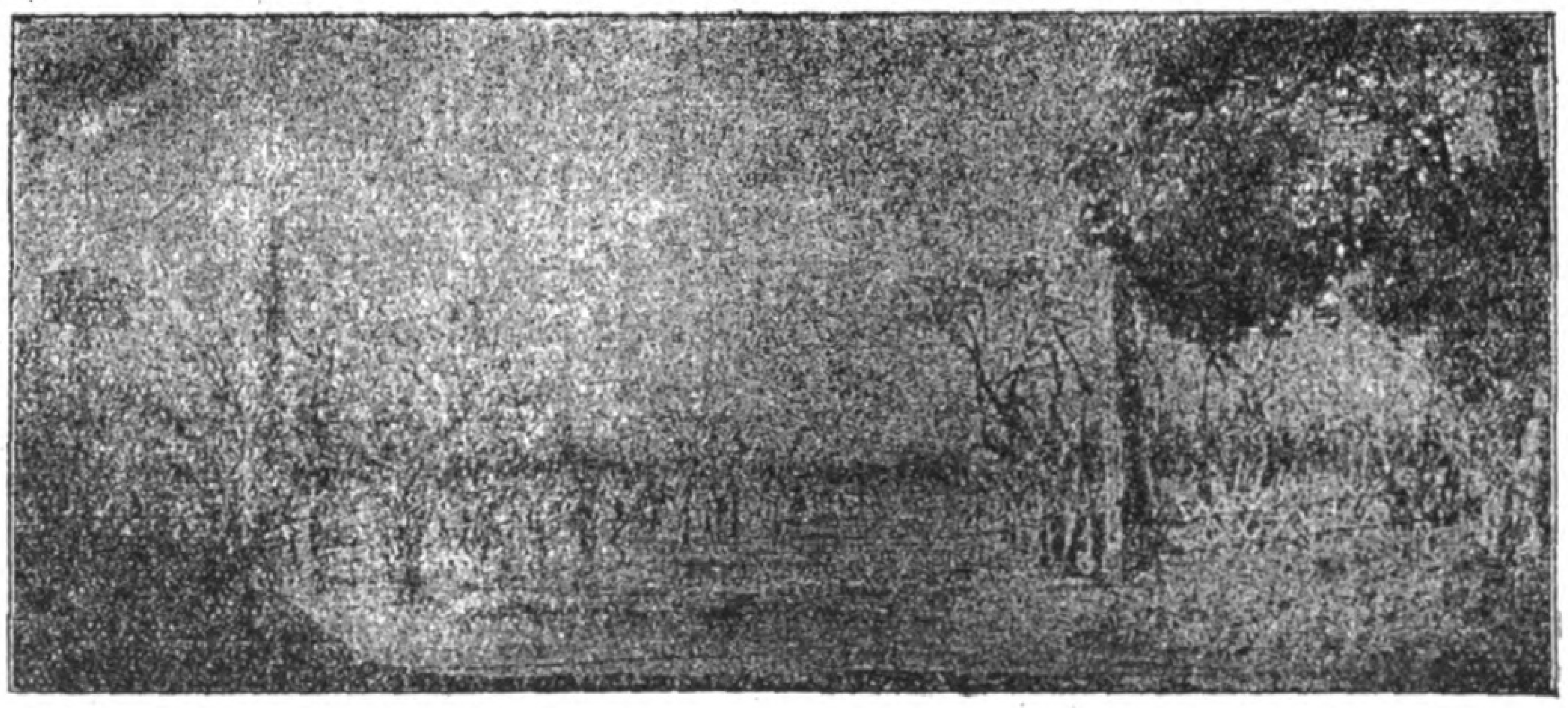
女大學に含まれたる眞理は今も活用さる（下）

文學博士　前田慧雲

それて昔の女大學にかはる可き處の最も善き敎訓書があれば、夫を矢張朝夕とまでは行かなくとも、日に一度なり、又日に一度と云ふ事が出來なければ一週間に一遍でもよい其敎訓書を手に取りて心から讀むやうにしなくては、いくまいと思ふ。若し善い敎訓書がなければ矢張昔の女大學で惡くはないと思ふ。あの女大學の中にある處の現今の事情に適しない事柄は是は平素學校に於て養ふ所の知識で以て現代の事情に適合させるやうにする事が出來るのである。

て、前に云ふた婦人道德の根本的眞理と云ふ者を、それを女大學の中からして自分の頭腦の中へ染み込ませるやうにする事が必要である。さうでない時には、學校で何の位現今の時代に適する知識を搾へて、今日の社會の事情に甘く適合させるやう、其融通のきくやうに——否今の人は却て其融通が効き過ぎて根本の眞理を其方のけにして仕舞ふやうな有樣である。さうなると如何程今日の事情に適合する働きが出來る者でも、根本たる處の者が無く成つて仕舞つたならば、婦人としては全く零に成つて仕舞ふ。要する處婦人道德として動かす可らざる眞理があるのであるから、是を日々夜々に頭の中へ染み込ませると云ふ事が極く大事であらうと思ふ。

こんな事は解り切つたやうな事であるが、仲々實際になるとさういつて居らん。何れ程ハイカラであつて當世的の人間で立派な事の出來る者でも往々其根本たる處を失つて仕舞ふ者が出て來るやうであるから、其處は余程大事な事であらうと思ふ。（文責記者）



水戸●梅園

△雛のいろ／＼

雛見世の灯を引くころや春の雨　蕪村
滑かゝる髪もなまめかし夜の雛　蓼太
旅人の窓よりのぞくひなかかな　白雄
蠟燭のにほふ雛の雨夜かな
神代より今のさまゝて雛かざり　闌更
虫ばみの末摘花や昔びな　蓼太
濃黑く老ひにけらしな母の雛
ふるひなやむかしの人の袖几帳　蕪村

明治の婦人と外交の手腕

子爵　秋元興朝

吾が國に於ける目下の急務は何であるか――。

▽刻下の急務は何ぞ

吾が國が世界强國の一としての地位を維持する方法としては

（一）兵備の充實、國力の發展に依つて日露戰爭で受けた苦痛を癒し、戰爭以前と同樣の强壯な狀態に回復せしめること。

（二）國民一般に對し、外交的智識の練熟を圖ること。

これ等が急務中の最急務であらうと信じます。勿論、憲政の發達進步に依りまして、立憲的とか、非立憲的とか稱へる中傷的の言辯を、歐洲先進國の如く全然一掃する時代に接せしめるのは、蓋し明治百年を待つべきことゝ信じて居りますが、それは兎にも角にも、國民を指導する

▽一定不拔の信條

を置き、其針路によりて進步せしむることは、國家を泰山の安きに置くのみならず、國民をして眞に文明的、立憲的ならしむるものと思ひます。

在昔、江戶と西京との間百三十里の途を往復するにも十二三日かゝれば、その目的を達することが出來たのでありました。江戶と西京との間の往復に十二三日かゝると云ふのは、二十世紀の今日、汽車の便を借りるのと、その速力に於ては比較は出來ませぬけれど、その目的に對し一意專念てさへあるなれば、結局到着する點に於ては同樣の事と信じます。

それで吾が國の現狀を見まするとき御婦人たちの外交的手腕が、男子よりも優れたる美點あるに拘はらず、國際的交際場裡に出入することを成るべく避けられて居りますのは、男子と同じ愛國心を有せらるゝ責務を忘れられて居らるゝのではあるまいかと思はるゝ程であります。併しながら、斯く外交と云ふことが御婦人の間に冷視されて居りまするのは

▽吾國發展上の一大障害

と申すべき事と存じます。

蒲田の梅園

これが往昔であるなれば、男子よりは調に於て優れたる、優美な和歌を娯んで蟄居なされて居つても、別に吾が國家の進運には何等の障害はありませなんだけれども、今日にては何れの强國に於ても婦人の活動は大に男子を補翼して、自國の進步に大なる貢獻を與へて居ります。

兵備の充實や國力の發展に就いて擧國一致は無論の事であり、また外交の優越なる成効も無論國民の擧國一致は云ふまでもない事ではありまするが、御婦人の特質が經濟的智腦に秀絶すると云ふよりも寧ろ敎育ある婦人は外交に巧みなる美點を多く有せられて居ることは明らかなことでありますから、此美點を充分に發揮させらるゝならば、外交上の收得をして、他の事以上に愛國的に、効果あらしむるやうにすることの出來るのは疑ふべき餘地が無いと思ひます。

▽婦人と外交的天才

語學の如きは男子よりも御婦人の御方が餘程巧みであります。これは日本の御婦人方ばかりの例で申すのみてはありません。歐米先進國でも男子よりも御婦人の方が大に語學の方面に於て發達して居ります。殊に御婦人の美音は、男子の濁音よりも對手の人をして、心地好く感ぜしむるものであります。それ故に國際的交際場裡に立ちて男子以上の成効を奏せしめることは決して疑ひないことてあります。殊に商工業の國際的貿易を一層發達せしめ、彼我國民の意志を疎通せしむることも無論御婦人の力に依らねばなりません。兎角男子は柔かな處がありませぬが、御婦人であると優美なる點がありますから、機微を察する事も談笑の間に拾ひ得らるゝ事多きは明かなことゝ信じて居ます。

願くは今日の明治婦人に於かれては、美しき婦人の特質を發揮して其研を競ひて本領を失せず、歐米婦人の精華に比して敢えて遜色なき曉に達せられたいものであります。これは決して虚榮を盡すにあらず、寧ろ何等の本領なき者よりは大に喜ぶべきことゝ信じて居りまするが故よしや斯る理想が明治百年に至つて達し得らるゝかは知れませぬか、識者の敎を請ふ爲めに述べた次第であります。

女子敎育に於ける根本的準備（三）

學習院女學部長　松本源太郎

よくく考えて見ますと良結果を得やうとするには善良な敎育理想が必要てありませうし、完全な敎授方法が肝要てもありませうけれども、先づ何より大切てそうして必要とするのは、敎育者の人格であると思ひます。熱心にして親切な、同情心の深い堅實な人が一番大切であらうと考えてゐるのです。今日の敎育者中には、なるほど智識の豐富該博な、敎授方法に老巧な人はいくらも有りますが、それならばよく慈母の心を持つて子女に接するといふ親切な敎育家があるかどうかといへば、何人ても斷じて有りと言ひ得る人は無いてあらうと思ひます。要するに現在の處ではこの親切な敎育家の少ないといふ點に於て私は非常に心配憂慮して居ますやうな次第で、今の樣な有樣ではなる程智識の傳達注入は出來得るとしても、肝心な德育、精神敎育は施し得られないので、立派な人格の人を養成するといふことは迚も覺束ない次第です。實際學校に於て、あちこち掛持の先生などになると我受持生徒の名前は勿論その面容さえも知らないといふ有樣なので、かゝる有樣て敎育の實果を得やうといふのは、それこそ木に賴りて魚を求むるの類て全く滑稽の沙汰といふべきことであります。て私は何よりも先づ同情ある親切な敎師を求むるのが子女敎育の根本準備て有ると考える次第です。

既にかゝる敎師を得た以上は、次て其敎育方法に就て研究する必要があります一體多人數の一齊敎授は場合によりては有効な事も少なくは無いのですが、眞に敎育しやうとするには何うしても生徒の個人性を觀察して一々其性癖を矯正感化するといふ所謂個人的敎授によりて應病與藥の道を講ずるといふのが私の主義でありまして、かゝる目的の下に師弟の接近を圖り、學級に編制する生徒數の如きは出來得る限り少くして、比較的生徒の個性を觀察し得るの便宜を取り、以て子女の德性を涵養しやうといふ考えです。それから又同樣の目的て私が前任地山口高等商業學校に於て試みた方法て、今日も尚續行してゐるのですが、それは即ち生徒保證人に就ての施設です。私の採りました方法は世の多くの生徒保證人とは其實質に於て異なる處ありと信ずるのであります。一生徒に就て二人の保證人を要する。内一人は生徒の親近者て、他の一人は必らず同校の敎師に限ることにしたのです。是には多少の議論は有りませうけれども實際施設の結果は意外の好果を得たので私かに滿足に感ずる次第です。これらは一見平凡なやうにも見えますが父兄が其子弟の爲めに敎育上注意を拂ふことは勿論て、敎師が又自己の生徒を切保證する場合に於て、敎育上熱心の度が益加はるといふ理屈、生徒も又親と敎師との監督の下には痛く自己の面目と責任とを感ずるやうな事になり、相待つて得たる結果は比較的善良の卒業生を產して社會の歡迎を受くるといふ次第になつたのであると思ひます。

要するに敎師が半は家庭の人となり、半は學校の敎師であるといふ姿になつて熱心に親切に其生徒を敎導することになりましたならば、決して世人の心を寒からしむるやうな不都合に到來せない事てあらうと信じて居ります。實に將來益々國運の隆盛を來し、社會の福利を增進せしめやうとするに當つては勢ひ婦人の力に待つことが多いので、從つて子女の敎育を等閑に附すべからざる所以を切實に感じて居る次第であります。（をはり）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

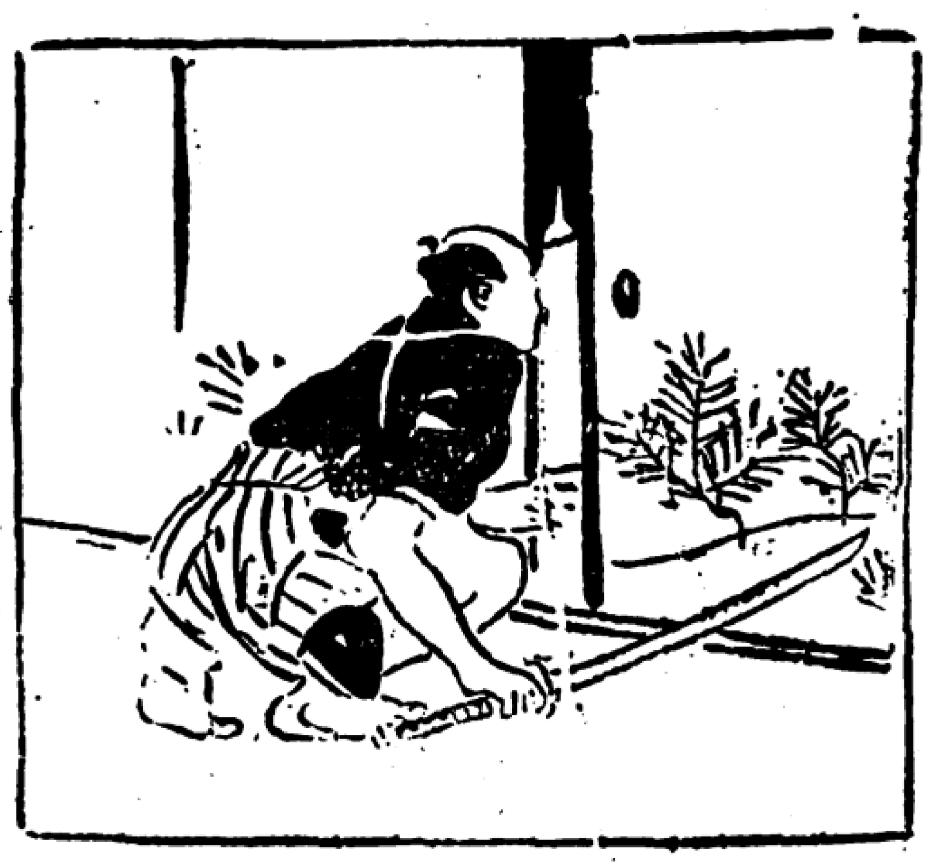
家庭

古今名婦鑑（三）

二人妻

紫所

昔、攝州に、懸橋源次右門と云ふ侍あり、親の源太夫は、傍輩の田蓑平馬に討れ、源次右門は、浪人して、仇を尋ねるに、所在しれざれば、母親女房をば、江州八幡の親類に預け、其身は諸國を廻りて、平馬の行衛をぞ搜しける、斯くて、越前大野と云ふ處にて、端なくも、平馬の住家を見出したれば、大に喜び、何とぞして忍び入らんと思へども、平馬もさるもの、用心をさく\/怠りなかりしが、愛に、平馬の召使に、蓮と云ふ女あり、源次右門種々の手段を以て、此女に逢ひ熱心のよし言ひけるに、蓮の云ふ樣、御身にお内儀なくば如何樣にも、お心に從ひ申さんとの返事なり、源次右門は、此場合深くも思ひ回らさず、國元には母と妹ばかりにて、未だ妻は定めずと、答へて、遂に夫婦の契りをなし、夫よりは、自づと情けも加はり、いと睦まじく、成りゆきければ、或日、心底を明し、何卒手引して、平馬を討たし給はれと云ひければ、女は驚く氣色もなく、妾初より御身には、志願ある事と察したれば、如何樣にも、手引して、御望を遂げさすべし平馬の屋敷には、大溝あれば、之を沿ひて、高塀に取付き給ひ、東より五間目の柱を上にあけ給はゞ、必ず塀の一間開き申べし、是は豫て、平馬が造りし、通道なれば、此處より入り給へ、内に小庭あれば、其より左に付きて廻り給へ、假山の上なる小松の陰に、妾忍びてあらん、夫より平馬の寢間に案内すべしと、いと懇に敎へければ、源次右門大に喜び、其夜やす\/忍び入り、遂に仇をば討取たり、斯くて、夜にまぎれ、お蓮をも具して、大野を立去り、近江には還りしが



源次右門つく\/と思ふ樣、吾一時の手段として妻なき由を僞り、本望は遂げしかど、今此地に還りて、妻に申譯なし、如何はせんと逡巡しが、思ひ定めて妻の住ける家に到り、妻をば呼出し、物陰にて委細を打明け語りければ、妻は良人が傷もなく、仇討を遂げしを大に喜び、さな心使ひし給ふな、其儘に妹なりと言ひて、引合せ給へとて、更に怨むる樣子も見えず、母上にも、其由申さんとて奧に入り、斯くと告げるに、母はなか\/聽入れず、源次右門、お蓮をも呼入れて、云ふ樣、御身父の仇を討たんとして、女をば方人に恃み、本望を遂げしにより、夫婦に成りて、異の妻が是迄永らくの辛苦をも思はず、其を捨んとするは、思ひも寄らぬ事なりと、立腹せしかば、源次右門も、今更當惑なしたる樣子を見て、妻は忽ち決心なし、此身あればこそ、良人が義理ある女に僞りを言ひし事ともなり母の怒をも招きしなりと、源次右門が腰の物を見るより早く、自害せんと爲せしかば、彼の女大に驚きて押止め、妾こそ淫狼もの、源次右門殿が、仇を討たん爲めの謀計をば、誠と思ひ、此處まで隨ひ來りしは、此身の愚と謂ふもの、生きて在りては、お内儀に一分立たずと、妻の持たる脇指を取りて、胸に當てければ、母人狼狽て押とゞめ、斯く兩人の心底見えける上は、死するに及ばず、兩人して源次右門にかしづき、妻とも孝行盡し給はれよ、此母が許るす上は、源次右門の不義とはならじ、兩人納得いかにと、懇に諭しければ、皆々悦ぶこと限りなく、夫より本國播津に還り、行末ながく榮えしとぞ。

講談

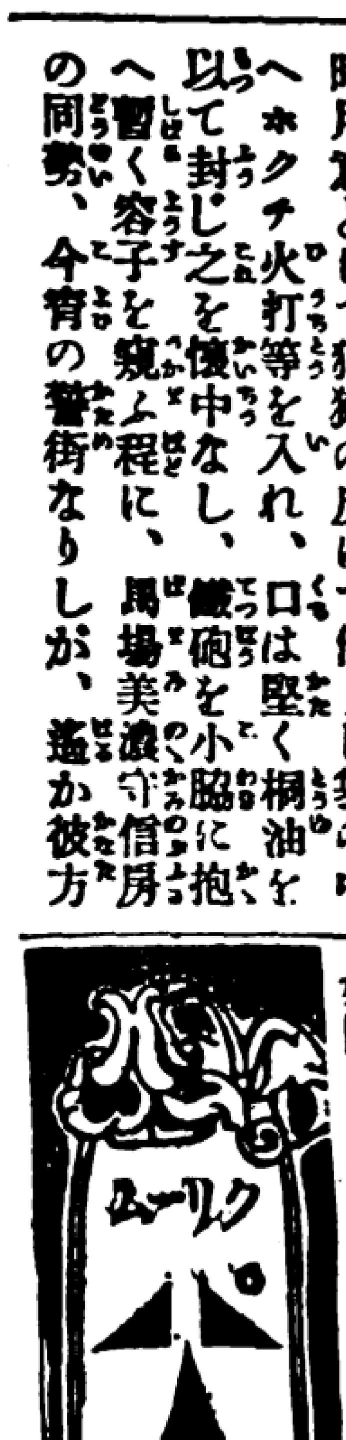
鳥居強右衛門（三）

大島光利口演

遙か末座に手を仕へたる件の若武者は大將の方に向ひ「先刻より大將方の御評議を末座に於て承り胸も燃え立つ計りに候身分輕き我々が申すも鳴滸がましき業なるが、御採用下されなば之に增たる喜びなし、御城内を脫出て岡崎城への秘密の御使者、拙者御勤申し度、不幸にして敵に捕はれなば、舌を嚙みて自殺なさんか際あれば敵將に近寄り、刺違へて死なんのみ、一言半句も御城内の有樣は夢々敵に申すまじ、首尾よく包圍を脫れ候はゞ御籠城の御苦しみ解け茲に愁眉を開かるべし、枉げて御承引下されよと申しのべたるは、勇しくも亦健氣ぞと人々その面をぢつと凝視たり、これ別人ならず、母の教訓寐た間も忘れず義を金鐵の重きに比す、鳥居強右衛門勝高なりけり。

貞昌遙かに此の態を見て軍扇にてハタと膝を打ち、貞「偖て\/妙しくも申せしものかな、身分はたとへ何なりとも、斯てこそ奧平が武運も長へなれ、汝辛ふじて城内を脫いて敵の包圍を脫すべし、萬事の手筈は、その方の心のまゝに取計へ疾く姓名を名乘れよと云へば、渠恐れ恐れ頭を上げ「鳥居強右衛門勝高と申す者にて候ぞ、君命を以て此大役を命ぜらるゝは、武士道の面目何事か之にしかん、必ず仕遂げ申すべし、尙申し上げたきは首尾よく敵の包圍を脫し候時は、彼方に見ゆる船見山か巖峰峠の絕頂にて焚木を集め火を點し申すべし、烟宙天に立ち騰らば首尾よく脫出しものと思召されたく、又復命の任務は一層大役にして敵も容易くは城内へ入れ申すまじ、是亦德川殿の後詰三日に來たるとあらば峠の絕頂にて三發の空砲を發すべし、五發射てば五日目に來ると知しめせ、又烟のみ騰り鐵砲の音聞えざる時は他國の戰況により、援軍來らざるものと御覺悟あるべし、さりながら窮鳥懐に入れば、獵夫も之を捕らずと聞く、況んや德川家とは御緣故淺からざる長篠城、豈夫援軍なさぬとは云はれまじ、今日まで御加勢なきさへ我々ども不審に思ひ候なり、何か事情もあるべきも、夫等の事は悉しく岡崎に於て取調べ申すべし、御名殘は惜けれど、ハヤ御暇を賜はるべしと一統に會釋なし、立ちいでたる其武者振り、萬夫不當の勇者とも見えて、頼母しくも亦雄々しかり。

時に天正の三年五月十四日の黃昏頃、一天雲なく十四日の月は鏡を磨きし如く四方の山々を照す風情は、宛然一幅の名畫を觀るが如く、梢を傳ふ猿の聲は谷水の響きに應じて膓を斷つばかりで御坐います。櫓に登つて強右衛門勝高は、籠手を翳して彼方の敵陣を瞰下し強「アナ物凄し岩代川の沿岸は、幕幔を打廻し番兵どもは手に手に松明を照し、城内の者忍び出て來るかと水面に氣を配る態なかなかに侮り難し、勝高玲瓏たる月を眺め、強「偖も泰平無事ならば此月を題に、歌を詠み詩を賦する輩もあらん、今宵忍び出る我には心憂き近え方よ、とつぶやきつゝ夜の更るを待つ、折しも叢雲四方に擴ごりて月を隱せば、勝高天を拜して打喜び「我が忍び出る時こそ來たれ」と細繩を以て別に拔穴よりツル\/と降り立ち、石垣の穴より岩代川の敵陣を看る、是時用意として獼獺の皮にて作りし袋の中へホクチ火打等を入れ、口は堅く桐油を以て封じ之を懐中なし、鐵砲を小脇に抱へ暫く容子を窺ふ程に、馬場美濃守信房の同勢、今宵の警衛なりしが、遙か彼方より松明を翳し同勢三十餘人を連れて巡廻し來る、むくつけき甲州武士の金釵を彫飾たる陣刀夜目にも輝き、兜を背に白絹の鉢卷後長に結び下げ一方の大將と見えたるが是ぞ跡部大炊頭なり、やがて陣張の裡に入れば正面の床机に腰打かけ泰然と控へたる馬場信房に會釋して跡「交代の刻限に迫り候イザ代り申さん」と申し入る、信房莞爾と打笑み馬「偖も我々心にもなき戰の仕振り皆々物憂く覺ゆれども君命默し難く、鷄を割くに牛刀を用ゆる意いたすと、明白に夫と云はざるが思ひは色に現はれて跡部に交代をさせ家來引倶し悠々と松明を持つて路野瀬を照させ出て行く容子、遙か離れて定かにソレと明白ねど窺ひ濟したる勝高はイザヤ水中に入らんと思ひしが、フト心付て水面を看るに、一ハ如何に水面蛛の巣の如く繩を張り皆之れへ鳴子鈴繩等を着、若し水中を潜りて忍び出る者あらば、忽ち敵陣に響くべき用意は、中々以て迂濶の事は爲し難く、如何にして之を脫せんかと思ひしがフト心づひて流の曲りて巖の下に流もやらず一ツ所をめぐり\/居る枯木の枝五六本あり、是れ幸ひと拾ひ上げ、ソット川上に遣行き、流の中へ押入れゝばズル\/と水面に到り、鈴繩に觸るゝと見るや川向ふの敵陣よりソレ氣を付ヨと七八人の敵の士卒は明松を振り翳して水面を看むる容子、繩にかゝりし枯木とて川下に押し流したり、勝高笑壺に入りて二度目には吾が腰につけたる細引に朽木二三本を結付、川中へ投入れ、此方の巖陰に身を寄せて容子を觀る、忽ち鳴子に觸れたりと見え、倉忙敵兵驅出て水面へ松明を翳す折こそよけれとツット此方の岸に結付て朽木を引寄せ、容子如何にと窺ひけり。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

印度土産
お伽講談

義烈の少女（三）

巖谷小波口演

何事も運命であると思ひ詮めまして、憐むべき「アミナ」は泣の涙で三年の月日を送りましたが、「ユプラ、チング」は流石取る年齢で御座います、僅三月程の煩でポックリ往生を遂げました。そこで又思ひがけなく「アミナ」の身に災難が生つて來たと申しますのは、この波羅門宗の法典に、僧侶の妻は夫と生死を共にすると云ふことが御座りますので、夫が死ねばその遺體と共に、妻は生ながら火葬されるので御座います。何と恐怖しいことでは御座いませんか、一體夫が妻を前立てた場合には、平氣で幾人でも後妻を持つて、それが妻の殘つた時には一所に死なねばならんと云ふ、左樣不公平なことつたら無いぢやありませんか、併し往昔より吾國でも貞女は二夫に見へずとか申して、矢張幾分か御婦人の方が御損の位置に立つて御座います。「アミナ」は心に染まぬ夫に別れましたので、ホッと一息吐きましたが、こんどは否應なしに生命を捨てると云ふ、難題が生つてまゐりました。これには深い魂膽があつてのことで御座います、それは前申すとほり妻が夫と共に、この世を去つて極樂へ參りますなら、夫の財産は妻の親戚の手へ渡るので御座いますから、かの「ユプラ、チング」の遺しました數萬の財産は當然「アミナ」の繼母の手へ入るのです。それですから理も非もなく「アミナ」に極樂往生を迫るのです、終ひには藥酒を用ゐて昏醉の狀態にして、まあ到當承諾と云ふことに致しました。そこで日を卜して「ユプラ」の死體と共に火葬にして了うと云ふところを、丁度かの「ホルゴリッチ」中佐が、その頃はまだ聯隊附の少佐で御座いまして「デルヒー」から守備地を「カルカッタ」へ移します途中、この「ザッチー」と申します火葬の儀式を擧行いたしますに出會ひました、群つてゐる僧侶土人を追拂つて「アミナ」を助けたので御座います。それからいろ〳〵介抱いたしまして、その憐むべき樣子を聞き、少佐夫人の「エリヤ」が大さう可憐さうに思つて「カルカッタへ」へ連れてまゐり、手許にに使つてをるので御座います。その中「アミナ」はだん〳〵夫人からいろ〳〵な敎育をうけまして、遂に基督敎の信者になり、名を「マリヤ」と改めました。さう云ふ再生の恩がありますから普通の奉公人とは違ひます。何うかして恩返しをせねばならんと平常心懸けてをりますから、至つて忠實に働いて、蔭日向なく家のことに氣を配つてをります。中佐夫婦は非常に可愛がつてをりまして、わけて夫人は眞實の妹のやうにしてをります。兩人の小供もよく慕いて、暇あるときは、一所になつて遊でをります。て今日は午前より多勢のお客があるものですから、マリヤは、兩人の小供を二階の一室へ連れてまゐり、遊對手になつてをりましたが、午過になると、小供は家の内にばかりゐるのに倦いてまゐりました。そこて「マリヤ」は兩人をつれて裏庭の方へ出たのでありましたが、そこは「マンゴー」の林をこして、廣い花壇のつくつてあるところです。一體この印度では、さすが熱帶國だけありまして、猛獸毒蛇の種屬が多いところで御座います、毒蛇のなかにも「コブラ」と稱へますものが一番怖しいさうて、これに一寸でもやられますと五分經たないうちに總身に毒が廻つて直に斃れるさうで御座います。それにこの「コブラ」と申す奴は深山大谷にをるのではなく、人家に近いところに捿むのださうて、時としては家の内へまて入つて來ることがあるさうで御座います。實に危險極るやつで御座います。これの毒を消す適藥が當時まだ發見されてゐませんてしたから一旦咬まれましたらもう死ぬものとしてあつたのです。英吉利西からお醫者も次第に澤山參りましたが、いろ〳〵手を盡して見ましたが、矢張効はなく、一人も助かつた者はありません。たつた一つの方法は咬まれたところを直に口を以て毒を吸出すのださうですが、さうすれば本人の生命は助かりますが、その代り吸つた者は身代りに立たねばなりません、尤もこの方は自然毒の廻り方が遲いさうですから、その中に何うにか手を盡して見るまでのことで御座います。併し自分の身を殺して他人を助けやうなんて、左樣ことをいたす人は滅太にありませんのです。

「ホルプリッチ」中佐の愛孃「ルチー」は弟の「チョージ」と共に裏庭の花壇の邊りに遊んてをりましたが、お傅役の「マリヤ」はあとに跟いて怪我などをせぬやうに注意してをりました。「チヒージ」は花壇に咲いてをりました美しい花を見まして切りにとつて呉れいと申しますので、「マリヤ」はその花をとつてをりますと、傍から一疋の美しい蝶がたちました。それを見ました「ルチー」は

『アレ奇麗な蝶！』

と申しながらその蝶を追うて、花壇の向ふの草原へまゐりましたが、ヒラ〳〵と輕く低く飛んてをります蝶に氣を取られまして、足元がお留守になつてをりましたから、何かに躓くとバタリ前に倒れました。「マリヤ」はその音に驚いて「ルチー」の方を見ますと、何うしたのですか「ルチー」は

『キャッ』

と一聲魂ぎるやうな悲鳴を上げました。

賢母嘉悦勢代子

海村

三、

氏房氏、既に長じて十六歳、其父、命を奉じて役に就き、熊本市に歸りて上林町に居を占むることとなりました。家祿以外に俸給の收入あることとなりましたから、生活はこれより漸く豐になりましたとは云へ、勢代子は、更に貧困の時代を忘れず、自ら水を汲み。米を炊ぎ、自ら勞働して更に雇人をおかず、只管其子の行く末にのみ心を惱しました。

時に横井小楠、沼山津の村藏にありまして、尊王の大義を講ずるのでありました。氏房氏十七、此事あるを聞き、一度小楠の學説を聞かば如何ばかり益するところあらうと、小楠に知られむ事が、氏の切なる願ひてありました。けれども時の熊本藩は誰れしも知れる如く、保守的思想横溢して、小楠の時勢を達觀せる思想を容るる能はず、徒に外道呼ばはりをして厭忌する事甚だしく、およそ小楠の門に通ふものは、藩侯の忌に觸れないものはなく、篤志の人は夜陰に乘じて、小楠の門に入ると云ふ有樣でありました。

氏房氏、小楠を慕ふの情遂に禁ずる能はず、友人と謀りて一日ひそかに小楠の門を叩きました。而して小楠の講話を聽く事數刻、その達識に深くも感嘆し、今後の時勢は遂にしかあるべきを悟り、且つは此偉人の面影に接せしめたる天の御旨を感謝して、家路をたどられたのでありました。

如何なる事ありとも、我は小楠の門人たるべしとは、氏房氏の決心せるところてありました。されど此事を父に乞へば、必ず叱責せられやう。しかず先づ母に語りて、ともに父の許を得やう。とは云へ、母と雖も、侯の忌に觸れ、家運再び沒落の不幸を犧牲としてまでは、我請を許すまじなどと、思ひ來れば、更に暗黒なる境にたゞ一人彷徨ふ心地がしました。よし許されずば、それ迄だ。其時は其時て、まだ何とか考へやうと、思ひきつて思ひきつて、彼は母の膝にひれふしました。

當代名家選

三輪田眞佐子刀自筆蹟

棚橋絢子自刀筆蹟

鶯の鳴きそこなうてかくれけり　蓼太
黃鳥の素足も寒き梢かな
横に日のうくひす見こむ書の小口　白雄
鶯に圃すこしある屋數かな
黃鳥や雛もつ我に鳴むかふ　闌更
うくひすや隣なき家は四方に鳴
留主守て鶯遠く聞夜かな　蕪村
うくひすの鳴やちひさき口明て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜録

人形は婦人一生の道伴れ

女の子が人形を愛するのは眞面目てある。慈母の愛と云つてよい。人形を弄んて居る女の子を見ると、子煩惱の母が子守をして居る時に見る樣な神聖な愛情が、その眼中に溢れて居る觀がある。男の子は幼い時の特性は大人となつては殆んど殘つて居ない、よし殘つてをるにしても極稀てある。所が十歳の少女の特性は、大人となつた婦人にその大部分が殘つて居る。十二の女の子ても、その人形に對する愛情は、さながら母の如く、その注意周到なと恰も親の如くてある。余はその適切なる例を小供時代に遡つて話さう。或日のことてあつた、面白い遊びを企てゝ、遊び仲間の女の子を誘ひに行つたすると例になく手ひどく撥ね付けられた。そこてその理由を聞いて見ると、人形が風に引いたから看病しなければならぬと云ふのてあつた。少女は極眞面目てあつた、そしてその日一日家に引き込んて人形の看病をして居た。又或女の子は人形の家を掃除するのに半日を費して喜んて居た。その外人形を脊負つて子守謠を歌つたり、子供に母が物を謂ふやうに人形に物を云つたりするのを見ることは何時てもあることてある。して見ると女の子は先天的に母となるべき特性を備へて居るのは爭ふべからざる事實てある。

男子は子供時代になかつた性癖、嗜好、その他種々の特性が、大人になつてから表れるものだが、婦人はさうてない、三十歳の婦人は十歳の少女時代に持つて居た性質を持つて居る。唯小さなものが大きくなつたまてゝある。惡少年も歳を取つて善人となることがある。善良なる少年も長じて惡人と變ずることがある。

然し優しく親切なる少女は、矢張り優しい親切な妻となり母となる。その反對に冷淡な無情な少女は、冷淡な無情な妻となり母となる、そして男子の如く氷變することがない。要するに男の子は男の子て、女の子は小さき女てある。

多くの場合に女は人形を子供の如く取り扱ひ、子供を人形の如く取り扱つて居る。世人は婦人が子供を育てるに注意周到て行き屆て居るのを見ると、えらい母だと云ふ。けれども女が子供を育つるに自分の務むべき義務職責を感じてさうする譯てはない、唯子供が人形を可愛がる樣に始めつからさうするのが愉快なからてある。だから隨分大きくなるまて、子供を人形の樣に弄んて居るが、子供が自由が利き、手に負へなくなると、厄介な子供だと愚痴をこぼし始める。自分が勝手に育てながら、育つた子供が惡いやうに吹聽する。隨分蟲のいゝ話てある。

どう云ふものが、世間のお姑さんは嫁を憎む、所がその憎い嫁さんの腹から出た子供はまた妙に可愛がる。まるて嫁さんに對するお姑さんと、子供に對するお祖母さんとは、別世界に生れた別物ぢやないかと思はるゝ位てある。だがお祖母さんが子供の機嫌を取つたり、可愛がつたりするのは、その根本をたゞして見ると、決して子供の爲を思ふからてない、唯自分の老後の無聊を慰むる爲めに生きた人形を弄ぶに過ぎない。如何にお祖母さんが子供によくしても、その子供は俗に云ふ「お祖母さん子は三百文安い」の外何の利益も得る所はない。

して見ると女と云ふものは餘程人形と緣故が深い、その少女時代には人形を玩具にし、母となつてはその子供を人形扱ひにし、お祖母さんとなつては、その孫を人形代に弄ぶ。更に一歩進んて、女自身の上に目を轉じて、紅白粉に身を俏し、外貌を飾り立てる所を見ると、自身をも亦人形扱ひにして居る樣てある。要するに人形いぢりて一生を終はるものは婦人てある。

余は夜會て、交際社會の花形として世に知られた一美人と屢々一所になつた。互に顏を知つて居るので、話もすれば笑ひもした。けれども彼女は余に對して何となく冷淡な所があるので、常に物足らぬ不快な感があつた。或時機會を得て、その理由を尋ねて見た。そしてその答の意外なのに驚いた。「どう云ふ譯と、そんな六ケ敷いことは御座いません。けれども今から二十年ばかり前のこと、あなたが私の家に入らつしやつて、母とお話しなさる時に安樂椅子の上に睡つて居る私の人形を無作法に取つて除けて、頭を下にして鼻に傷をおつけになりました。私はその時實に厭な方だと思ひました。」と何とよく婦人の性格を表した言葉てはないか。

（紅童）

詞叢

沓手鳥

薄田泣菫

深山の鳥のほとゝぎす
沓あきないのほとゝぎす
鵙に沓代を貸したまま
ついそれなりに秋も來た

その後の鵙は氣の毒に
幸福の無い日ばかりて
沓の代をも拂ひかね
深山を逃げて里へ來た

里は九月の秋はじめ
鵙は澤やら田におりて
慌てる蟲を捕へては
ひとり乾物を仕はじめる

歳も更りてほとゝぎす
鵙を尋ねて野へ來れば
鵙は居らいて草莖に
濟せぬ沓代にせめてもの
蜥蜴や螻蛄の贄ばかり

薄のろ

小春日和の牧の野に
鶏と家鴨が落ち合うて
噂に聞いた薄鈍の
驢馬と豚とを比べたら
どちらが兄て優かろと
鶏と家鴨の物がたり

ところへ驢馬と豚が來て
豚はそろ〳〵居睡るし
驢馬は大きな欠伸する
どれ劣らずの御方ぢやと
鶏と家鴨は驚いて
家鴨は水へ、鶏は野へ

御園化粧品目錄

畏き邊りの御料に召させ給ふ
完全無鉛高貴御化粧料
長谷部仲彥氏發明

御料 御園白粉

煉製 御園白粉 濃化粧。顏ぬり用ねりおしろい。純白。淡紅色 壜入金二十錢。金三十五錢。金七十五錢 特製金廿五錢。金五十錢。金一圓。金三圓

樂屋用 御園白粉 舞臺化粧用。濃化粧専用 固煉おしろい 小器金四十錢 大器金七十錢

との粉色 御園白粉 舞臺化粧用。紙の粉代用肌色。固煉おしろい 壜入金四十錢 硝子器入金一圓

水製 御園白粉 薄化粧用。純白。淡紅。色水おしろい 壜入金二十五錢 大壜金五十錢

粉製 御園白粉 洋風濃薄り粧及顏なほし用。粉おしろい 純白。淡紅色 紙包金十錢。紙函入金廿錢。壜入金五十錢 かくし化粧用ポット付紙函入金五十錢

美顏料 御園クレーム 洋風化粧白粉下。かくし化粧下兼用 小器金貳拾錢 大器金五拾錢

濃化粧用 御園の蕾 舞臺化粧及素顏濃化粧専用白粉下 錫入金十錢

化粧水 「四季の花」 あれ性の人に適する化粧水 錫入金貳十錢 大壜金五十錢

化粧水 御園とき水 脂肪質の人に適する化粧水 壜入金十五錢 大壜金五十錢

打白粉 御園なでしこ 懷中用顏なほし。あせどめ用。はや化粧 紙包金十錢 かくし化粧金十錢

香油 御園水油 髮の毛黑く、艶々しくなる水油 壜入金三十錢 大壜金五十錢

芳香 御園香精 純粹の花精のみを以て製したるハンカチーフ用 壜入金三圓 別器金五圓

化粧香水 御園の橘 芳香果精を以て製したる化粧用香水 大壜入金一圓

殺菌消毒 御園歯磨 長谷部仲彥氏多年の研究に依りて調劑したる 壜入金二十錢 大器金五十錢

製造本舗 東京芝 伊東胡蝶園

發賣元 小間物化粧品問屋 東京日本橋區橘町四丁目 丸見屋商店 〔長〕電話浪花四四八番 振替貯金六五三六番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

△**周宮殿下の御獻詠**　周宮房子内親王殿下には去月十一日の紀元節に大和畝傍の橿原神宮に神殿大修繕落成祭を行はれしにつき神武天皇の御靈前に色紙御染筆御寄進あらせられし御歌を漏れ承はるに

日の本の國の御柱たてましゝ
むかしの今日を誰かうたはぬ

かし原の宮居にしける榊葉の
さきくと御代をまもりますらん

其他佐々木御養育主任等の献詠の一二を擧ぐれば左の如し

周宮内親王殿下御養育主任伯爵　佐々木高行
年月にいよ〳〵高く仰ぐかな
うねびの山の神の大宮

典侍從三位　高倉壽子
かし原の神のみいつを國と伴ふ
國のはてまてあふく御世かな

典侍從三位　柳原愛子
みやはしらふとしきたてゝかしはらの
神のまもらすくにはうごかし

權典侍正四位　千種任子
かし原の神のみいつとつ國の
人さへあふく御代そかしこき

△**出世鸚鵡**　伊太利國女皇エレナ陛下は今回のメッシナ震災地に臨ませられ親しく罹災者の救護に從事された事は當時の新聞紙上で諸氏の知る處なるが、丁度其折りのこと、累々たる建物の壞れの中からフトいたいけなる聲して「マアちやんちやん」と呼ぶのが耳に止まつた「ソレ、救ふて取らせよ」とあつて陪從の人々早速上のものを取除けて見ると美しい一匹の鸚鵡が籠に入つたまゝ些しの怪我たもせて呼んで居るのであつた、陛下は「オオ」と喜ばせられ籠を手に取らせられると鳥は嬉し氣に羽搏きして尙しも「マアちやん〳〵」と呼ぶ、陛下はハタと膝を打たせられマアちやんと云ふ人が居るのてはないかと仰せられるので最前の場所を尙も深く堀り起して見ると成程、十六七の眉目麗はしき一人の乙女が梁の下に氣絶して居る、手厚き介抱のお蔭で乙女は息を吹き返したが此乙女はマーリーと呼び朝な夕な掌の上て玉と此鸚鵡を愛食して居たのであつた、陛下は此小さき鳥の忠義を目の當り覩はし世にも目出度き鸚鵡よと乙女には褒美の品を取らせられ鳥は紀念にと乙女に乞ふて持ち歸へられた鸚鵡は主人を救ひし手柄により一朝九重の雲深う錦を飾る身とも知らて、御馬車の中より「マアちやん〳〵」と乙女の方を向いては彌が上に呼ぶのであつた。

△**婦人の力と貿易**　昨年の輸出入總額は八億一千四百五十萬圓にして、一昨四十年のは九億二千六百八十八萬圓なりしとのことなるが、その中に就き主に婦人の力によりて輸出せし品の景況を擧ぐれば

	四十一年	四十年	增減（△印は減）
製茶	一一、一六万円	一二、六二万円	△一、四六万円
紙卷煙草	一、六〇	二、〇六	△四六
屑絲	七、八八	六、一四	一、六四
生絲	一〇八、六一	一一六、八九	△八、二八
絹絲	二〇、七二	三〇、二五	△九、五三
製帽用眞田	三、九五	五、五二	△一、〇七
羽二重	二八、〇七	二九、一五	△一、〇八
絹手巾	三、九〇	五、二九	△一、三九
綿浴巾	一、三一	二、一二	△八一
綿布	一一、六二	一六、三六	△一、七四
花筵	五、七六	五、七四	二
燐寸	九、四七	九、四五	二

にして、我が國輸出品の過半は婦人の力に依るに云ふべく、されば婦人の力も仲々に大なりと云ふべしと聞けるがまゝを此處に記す。

△**不思議な記憶力**を保てる斯る小供も世にはあるなり。京橋南小田原町中根某と呼ばるゝ人の長男卯三郎と云ふは今年六歳と何ケ月といふ幼兒なるが、天性極めて記憶力に富み、父が試みに漢字を發音別に分類して象、像、藏、園、院等の漢文を、動物園のぞう、西郷銅像のぞう、土藏のぞう、上野公園のえん、病院のゐんなぞと問ある毎に敎へ込みたるを一々精細に記臆し、千有餘文字を自在に讀破するに至りしと聞く。このまゝに進み行かば末恐るべき神童と云ふべし。

△**錦秋實用女學校**　本郷元町なる同校は今回その筋の認可を受け、戸田子爵を校長に、創立者秋間女史舍監の任に當り、本郷區内名望家、貴婦人百數十名を顧問として愈々來る四月一日より新科程により開校すと云ふ。聞く處に依れば、同校の修業年限は二ケ年にして特に女子に適切なる學術技藝を速成に敎授するを特色とせる由にて、尙ほ近き將來に於て高等科をも設くる心組みなりと。

新刊紹介

△**花の御殿**　お伽小說叢書の一卷として大層凝つた裝釘で世に出てました。井戸の卷、花園の卷、幻の卷、勞働の卷、蘇生の卷の五つにわかれ、息もつけぬ面白さて讀めるやうな書き振り。上田文學博士の序文に「吾が可憐な少年少女に讀まして、世の敎育家、保護者と一緒に、此肝腎な發達期の淸淨無垢なる情操を涵養し、善導するものを欲しいと思つてゐたので恰度隆文館の今回の擧を贊して此叢書を選む次第である」とあります。著書は三島霜川、書家は宮川春汀
（定價金四十錢　京橋南鍋町隆文館發行）

△**眞田幸村**　これは武士道小說の一冊てあります。彼の名高い眞田幸村の一生を宛然書のやうに現然と面白く書いたもの
（定價金一圓、同上發行）

△**春潮**　小栗風葉氏の新著てあります發端の「秋里順一か書齋に歸つたのは夜の二時てあつた」と云ふ處から「五月の初め再び故鄕に歸つた秋里は、永い間居るので無いらしい。人々は、秋里は又北海道へ行くのだと噂した」の結末まで巧に風葉氏一流の筆て描かれてある。美しい書物てある（定價金一圓、同上發行）

△**淸國西太后**　これは西太后崩御以前に出來た本て、しかも我が國に於て西太后の面目を現然と寫し出した唯一の本てあります。卷中、就中、西太后の素性、宮中の西太后、二十七歲の寡婦、西太后と日淸戰爭等は眼について面白く讀まれます。（定價金四十五錢、京橋元數寄屋町一、臺灣日々東京支局）

△**三家庭**　原田同志社々長の序文に、「ファラー博士の三家庭は、家庭の讀み物として英國に於て普く愛玩せられぬ。三十餘年前初めて此書の出づるや、故らに匿名を以てせしも、忽ち高評を博し發賣高數萬部に上りたりと云ふ。後數年博士の名を署して刊行せられしが、爾今、尙依然として珍重せらる。以て尋常一樣の小說にあらざるを知るべし」とあります。第一章三人の友より、第卅六希望の山に至るまで家庭の人に必要な文字が一つぶよりに並んで居ると云つても好いと思ひます。（定價金一圓、巣鴨内外出版協會發行）

▲二月號▲
新小說

▲本欄▲
手筒…柳川春葉
信號…草野柴二
明暗…鳥海香香
巷の人…しぐれ女
サロメ…小林愛雄
二階の人…兒玉花外

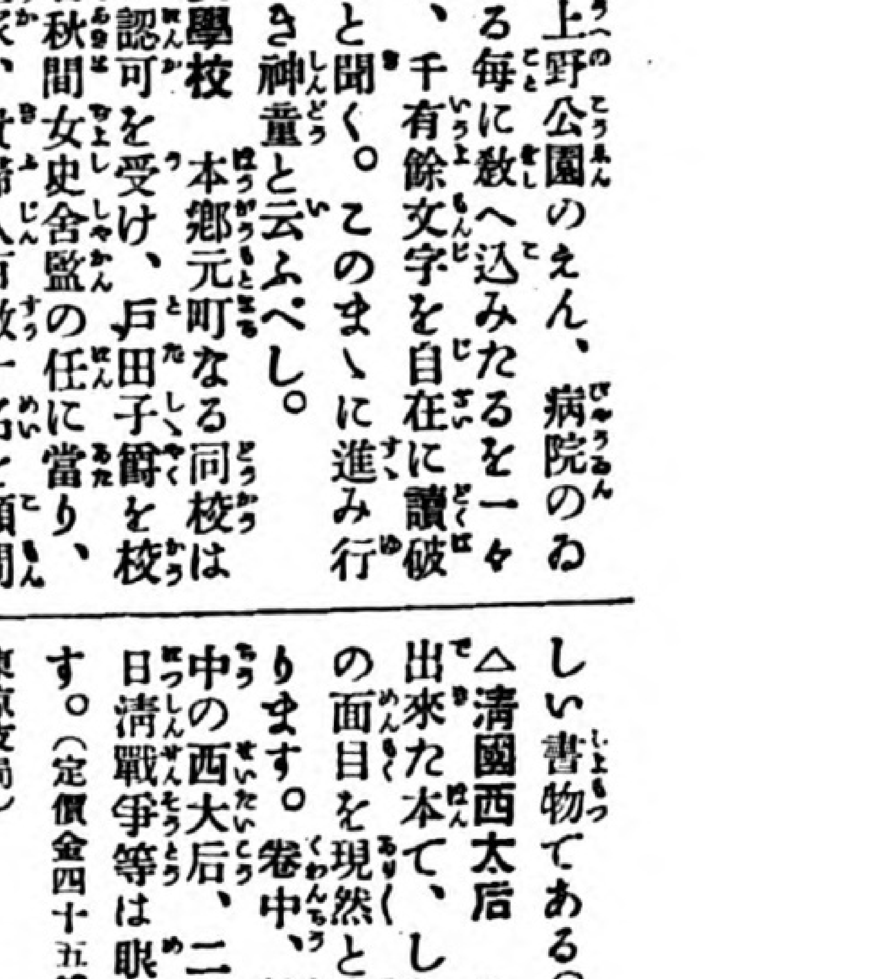
文藝院に望む二三の事故　上田萬年
日本文學に缺如せる一性格　齋藤信策
眼界を大ならしめよ　後藤宙外
猫と文學　片山孤村
裝飾の本義は美裝の表現　村田丹陵

文士劇協會…杉贋阿彌
片岡仁左衛門…胡蝶園
春の花…前田曙山
桃の節句…流行子
市頭小景…白柳秀湖
歸京途次…薄田斬雲
二月の各雜誌…（月旦）
同輮錄…後藤宙外

▲**寸鐵**
食人國、代作業、考へさせる文學、輓歐の響、吊鐘、自然派は源家の末路、謙德と推讚辭、文士劇界の偉丈夫、批評題目讚、批評價の値、流暢主義、寂滅主義、無解決、三面記事、野合の大書、餓鬼大將、餓お猿喉、小說の不振、小說の前途、文壇風俗記、敵將の降伏、流行の言葉、推讚の鉢合

▲石版畫 寫眞版等 コロタイプ刷 數葉挿入
●和田英作、平福百穗、山中古洞、鹽崎逸陵筆
▲實價二拾五錢（郵稅二錢五厘）
東京市日本橋 春陽堂發行

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋 三〇〇番 一五三〇番 三一九三番
同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花 一九〇一番 三三七四番 三五〇八番
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日歩七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

東京麻布 學農社


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

雛まつり　編輯局同人選評

一　京都　露　緒子

庭の糸柳に小雨ふる、彌生二日今宵饗應ならうけすともの〳〵し、雛の御座、雲鳥の綾の凡帳に風薫じ、水枝さす連翹や、太皷打ち笛吹ける、令人の袂に散るは玉椿、桃が咲ふや銀と黄金と溶けし御酒の口、おの〳〵亂菊蒔いて、光る御調度は女房三人、かちん參ろと優足よろへ捧げたり、絹燈輝く一室の中に、人まつ主人年八つ、その清淨の眉目かたち亦世の常ならず。

評　才氣汪溢の文

二　廣島　金原なを子

夫ある身も一人娘の事とて去年迄は自分が主人となつて今日の客を待遇して居た、今年はや母として二歳の愛兒を主たらしむべき運命にある、無心の小兒が紅葉の手に捧ぐる盃の、よし味は拙くとも奥殿に居ます雛樣はほゝゑみて受けらるゝであらう。

評　簡にして情を盡せり

秀逸

、、、〇　美作　入木清子

春雨のしとゝに降り、梅の花あとなくけをさりて、緋桃咲く頃となりぬるに、日うらゝかに對す南の窓、床の間の雛壇飾る、とり〳〵の彩あざやけく、菱餅の草の香や、かざす緋桃や白桃や、飾る雛も祭る人もそのあたり、目に見ゆるもの皆美し。

評　寫されたる筆も亦うつくし

、、〇　常陸　木内きく

大臣は皇國の代表者、雛は婦人の代表者、大臣は新陳代謝して國務を末世に繼承し、皇國の奕仰がるゝも、雛は一基長へに德操の鑑を保ちつゝ婦人の命を貫撓けて万代懸けて立る功績、みくら祭りはげに婦人の出すなく、たふとき祝日にこそ。

評　想餘りあずて筆之に伴はざる觀なきにあらず

題外秀逸

〇〇胸の花壇　青森　竹林秋子

胸の花壇今年で十有九年の春となつた、草花の芽が始めて出た、何の芽か自分には一向解らない、牡丹でも無ければ蓮華でもない、色もなければ匂ひもない、母に聞いたら大變叱られた、かくれて兄さんの農學士から聞いた時、知らずだと云ふた、花の色はどんな色かと聞いたら濃い藍(戀愛)だと云ふた。

評　原稿は詩として應募されたれど、普通の文章なれば、斯欄に移したり、

、、〇雪　神奈川　鈴木まつ子

おゝ吹く風の寒いこと、これでは又雪でせうとおもふうちチラ〳〵とふり出して忽ち銀世界となりました、音くもおそれ多うございますが、今日は大內山にて歌御會の始このふる雪も松夕枝も、ひときは榮あるやうにおもひました。

評　選者もあの日は柏木の寓居に、松に降り積む雪を眺めつゝ同じやうに感じました。

〇母の足駄を　越後　杉山勢子

山紫に匂ふ朝、茶によしと母ののたまふ水を、汲んで母の喜悦を拜顏し歸りたるはよけれど、只一足の足駄この足駄この足駄の齒を缺きたり……口惜しく涙乍らに訴へたるに、氣の毒がりて當分自分の足駄をかすからおはき……もつたいないと存しながら嬉しさにはいと答へたり、りんの毛皮のつける母上の足駄

評　龍頭蛇尾に終りたる傾きあり、

〇〇思ひ出　備中　天野園子

お絹さんは今日どうしたらう私此處に來る度に思ひ浮ばない事はない、あゝもう一年にもならうとする去年の春の三月、叔父樣の仰も姉樣の淚ながらの御諭しもはやりにはやつた私の心にどうして何の響があらう、翌日は上京と仕度も出來たり、流石に故鄕の名殘惜しくこの逸みさまよふと、ぞろ〳〵と舟に乘込んだ男達が、どうだ絹さんも行かないか江戸にゃ金がころんでるぜ大聲に云ふと渡守の絹さんはおの眞白い腕に掉を取り上げながら「京の都も戀しくあれど私にゃ年とる母がある――」餘韻遠く響く刹那、私は實に何とも云へない感が胸にせまつて覺えずさめ〳〵と泣いた。

評　投稿規約に短文は一篇百八十字即ち十行限りとあり、此文規を越ゆること殆んど二百字に垂んたりき選者の資格十分なれど、粗紙勝れたれば斧斷して特に掲載せり、今後の注意を望む。

、、、〇里の夕暮　橫濱　板倉かずえ

日はもう沈んでしまつた、空一帶戀人の胸の血潮を、刷いて絵かに畫したように夕燒する、鴉が三疋續く螺旋を畫いて居るのが、一入割然りと浮出たやうに映ずる、前の小川で里の男が菜を洗つて居る、水も菜も男も金色に輝いて、彼れはまぶしそうに洗つて居る、明光寺の入相の鐘が響くと、前の背田からうら淋しいやうな蛙の聲が聞えて氏神の常夜燈が灯つた。

評　夕暮のさまあざやかに寫し出られたり。

〇十分間　因幡　田中八重子

寒い〳〵と云つた冬の曆は一枚くられて、いつか春になつた、針仕事に日を暮す私も何となく心がときめく障子をあけると樂しい春の匂ひが漂ふて居る、櫻の木が見える、塀を越えて蝶がやつて來た、フヮリ〳〵と輕く飛んで、心が急に輕くなつて昨年の春が思ひ出される、あゝ障子を開ければ好かつた、いつか十分立つて居る

評　未だ推敲の餘地あるべし。

〇〇雪の夜　靜岡　富田とめ子

時計は今しがた一時を打つた、外はいつか雪になつて寒さは一入身に凍みるので、君子は一人火鉢を抱へて物思ひに沈んで居た、傍には夫の常着が火熨にあたゝめてある、ランプはれむそうにまたゝいて居る、まれに通る轍に幾度かむれおどらせたが、皆行き過ぎてしまつた、はや二時に間もない、君子はもう泣かずには居られなかつた、あゝもう今夜もおかへりはないのかと吐息をついた。

評　すら〳〵と蟠りのないやうに書いて、しかも其間に云ふべからざる寂寞を現はした處が此文の値です。

、〇　佐賀　小林龜子

いそがしかりつる一日のつとめもなし終へたれば、吹くとしもなき風に袂なぶらせつゝ、心靜かにくれゆく空をながむるに、何となう別れし人々のなつかしうなりけるまゝ、急ぎ室に入りて遠近の人々にと筆とりぬあゝされど、いかにしてまし、わがこひしき人の中ばは文も通はぬよみじの客なるを。

評　秋の夕暮なるべし。

〇停車場　三河　山内經子

一夜宿りの御年賀すまして今汽車へ乘り込みぬ、プラツトホームにはあけて八十の齡經し祖母君、白髮のみえしおぐしちさく丸まげに、妹のいまだそこわぬ大丸髷の赤のてがらかけし姿の、ようよ〳〵みえずなりぬ、窓より乘りいでし我がからだ、ほつと腰掛におろし此、思ふまゝになるならば今一夜つきぬ話もせまほしきものを、見送る人も思ひは同じことならん、

評　誰もしも感ずる事なるべし。

〇養鷄　福井　嶺輪貞子

御馳走の箸を置かうとした時、「おまへ鷄しいれなしたか」とおかみさんが、とんきような聲を出した「いや未だ、お客樣御飯すましてからと思ふて」「それあー大へんだ瀬戸で犬に追騙られるやうな聲するが」「エッ太三郎早ふいつて見て來い」亭主もあわてる、爐にあたつて居た十三四の少年は太い鐵の火箸を追取さま、雨戸けやぶらん斗りに瀬戸へ飛んで出た。

評　投稿規則を熟讀せらるべし。

〇批評　大分　桂卜靜子

先日私が人に批評をして頂戴と云つたら、お安い事とヲット私の顏を見て、貴女沈默寡言……そして友情に厚い……先づ安心と濟して居ると、だが虛榮心が強いこれはしたり風向が惡くなつたと思つて居ると、今度は貴女ちと慾が深い……益々形勢不穩となつた、此次はどんな事を云ひ出されるかと思つて、もう澤山と云はふとしたら、友はにつこりして、まあおまちなさい今のはみんな裏よと云はれた。

評　裏の裏が實際なんでせう。

社告

次回の文苑課題は左の通り、

和歌　春季雜題　三月廿日締切　四月五日披露　佐々木信綱選
俳句　春季雜題　四月五日披露　內藤鳴雪選
新詩　題隨意　三月廿五日締切　四月五日披露　編輯局全人選
短文　午前九時　四月五日披露　編輯局全人選

和歌及俳句は用紙を葉書又は葉書大の厚紙に限る
短文は一篇百八十字即ち十行限りの事、
住所氏名を明記せざる者は沒書とす、

白木屋の懸賞賣出し　日本橋の同店にては今度八千代黒と稱する新染法を披露のため、來る十日より四月十日迄の期間に於て、黒羽二重、黒縮緬、黒斜子、黒絽等四種の注文に對しては、特に抽籤法に依り景品を出し、盛んに賣出す由。悉しくは廣告を見給ふべし。

▲宇治茶直接小賣▼

拙家製品ノ眞價ニ就テハ世已ニ定論アリ左記手續ニヨリ注文ヲ乞フ

販賣手續

(一)無料ニテ注文シ送金ノ出來ル便法ハ御便利ノ郵便局ニテ振替貯金拂込用紙ト云フヲ受ラレ拙家ノ住所及ビ口座番號一〇〇四番等ヲ記シ裏面ニ御入用ノ茶名斤數其他ノ用事ヲ記入シ代金ヲ添ヘ差出サルレバ該金員等ハ直チニ拙家ヘ屆キマス故ニ早速物品ヲ郵送シマス極安全ニ便利デアリマス此ノ用紙ハ拙家ヘ御申越アレバ何枚ニテモ送リマス
(二)品物ト代金ト引替ニテ送品シマス故ニ御入用ノ茶名斤數ヲハガキニテ御申越アレバ直チニ代金引替小包郵便ニテ送リマス
(三)送費無料代價一圓以上御注文アレバ小包料ハ拙家ニテ自辨ス臺灣及清韓ト樺太ハ小包一個ニ付キ二十錢申受ク

經濟ヲ重ゼラルヽ婦人ハ一讀アレ

▲宇治茶製造元小包販賣ノ元祖
山城綴喜郡草内村
振替貯金口座番號　東京壹〇〇四番　大阪貳〇五五番
七碗堂　古川專太郎

東洋一の商品陳列即賣館
第一
第二
帝國博品館
第一館　新橋角　電話新橋一六五二番　二二六一番あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣す
第一第二館內各店共通商品切手發賣……御買上品は市內無賃で配達致します……
第二館　上野廣小路　電話下谷五三六番三〇四四番館內あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列即賣するの外左記特殊の設備あり
喫茶店。和洋料理。ミルクホール。汁粉。壽司。菓子果物店。美術室。盆栽盆景。理髮店。休憩所。上便所。洗面場。夜でも撮る寫眞場。

院長診察月水金木前松田醫學士診察火土前窮者施診火木前入院診斷隨時應需松田林兩副長は目下當院に在勤
電本八八八(病院用)八九八(私宅用)
東洋內科醫院
東京神田區駿河臺鈴木町二(御茶水橋畔)
院長　醫學士　高田畊安
神奈川縣高座郡茅ケ崎村濱(停車場所在特)
南湖院
河野副長は目下當院に在勤院長診察十曜日午後〇同時窮者施診副長診察月、火、水、木、金、土、午前

小兒科專門
小兒喘息、百日咳、腺病質、胎毒、貧血症、胃腸病(脹滿、脾疳)小兒皮膚病
ドクトル　メヂチーネ　長井岩雄
東京日本橋數寄屋町(吳服橋外)電本百八十

婦人病專門
院長　櫻井克己
芝明舟町十九虎門外宮樣前　電話新橋三三二
櫻井醫院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

佐々木信綱選評

天　美作　横川　明子

こゝにしてともにうたひし君はまさずその里川の春のよの月

評、いひざまやすらかにして情あり景あり

地　岩代　長谷川吉野

ふる里の春をしのべと梅の花文にまきにつゝ京なる姉へ

評、やさしきいもうとの玉さをひらきし折の姉の心さこそと思ひやられて

人　山口　末田貞節子

若菜もえ百鳥なきて梅咲きてはるをしめたる野邊の一つ家

評、まこと此一つ家のあるじこそうらやましけれ

秀逸

山の湯へ通ふ峠の夏木立なほ鶯の殘りてぞなく　越後　杉山　勢子

流れゆく水音さえて千鳥なくこゑあはれなる冬の夜中かな　岡山　山崎　露子

風はまた身にしみぬれと梅の花はるしりかほにゑまひそめけり　岐阜　小島　駒子

ふりつもるしつえのゆきをはらはせてきみにまゝくるうめのはつはな　東京　三宅　ひさ

氷居しかけひの水もとけそめていよゝ春めく山本の里　函館　安藤　きみ

うなゐらかつみこほしけん里川にうきつしつみつれせり流るゝ　岡山　西村　晁子

あつさ弓春の日數に入ぬれとまた肌寒ききさらぎの空　岡山　清水　梅子

白駒に桃折りそへて童ゆく十里の春野遊絲すなり　京都　露緒子

里川のわらやの裏の水車こほりのくさびときし春風　三重　日野千鶴子

朝日かげかすめる峯の小松原聲ものどかに鶯のなく　長門　嶋田　眞子

甲

吹きそめし梅の梢をたつれきて聲めづらしく鶯のなく　岡山　西村きよ子

まつまゝに春や來ぬらむわか庭の一木まつさく梅の初花　神奈川　足立夏とく子

風に散る花をなかめて思ふかなやかて消え行く己か身をしむ　大分　桂木　靜子

梓弓はるたちかへる山の端にこゝろをひくは霞なりけり　山口　末田　竹子

ちきりつる友もとひきぬさくら花うつくしくさけもてなしふりに　岡山　坂田　元子

何事も心にかけしこれもみなさたまれる身のならひなりせば　東京　山本　富子

流しもりかけはみえれと春の夜のつきは小舟にかゝりけるかな　横濱　鈴木まつ子

月や匂ふ花や匂ふとおほめかす園生の梅の咲きのさかりは　愛知　石川　類子

たゝむとも筆はおよはしうすくこく霞たなひくをちの山山　三河　山内　經子

病む母にまゐらせはやと少女子かゆき降る野邊に若菜つむなり　石川　篤　子

淺川に小舟うかへて探りけり梅咲く奥にかゝる白瀧　東京　中山　由子

乙

梅はやし近くなりけんふきかよふ風にも花のかをりこそすれ　京都　津田　貫子

春風に梅咲きつれど手水はちのころ寒さにこほる朝かな　呉市　竹入　晃子

こゝろよく咲く春風にさそはれてかすむ廣野にかをる若竹　三重　莊司　種子

おはしまにもの思ひつゝ夜は更けて花の木かけに十六夜の月　美作　入木　清子

醉ふ人を送りて行くや春の月影も朧ろにゆた〳〵として　下野　黒須　瀬子

ほろ〳〵と風にこほるゝわかやとの梅のにほひにかすむ夜の月　廣島　金原なを子

傀儡子むれにかけたる玉手はこあけてみたれは唯からにして（奥村刀自の御肖像を拜し奉りて）東京鈴木秋子

愛國婦人倶樂部

□臘月もはや尖なんとする昨日今日つめたきもの積る事三寸、京都は近來珍らしき大雪に候、我家より見る圓山の雪景色また風ならず心しられん人に見せ度候、今朝小包着（中略）此頃毎回我名に誤りありて心苦しく存じ候以來は露緒子と確に遊ばされ度、此名今は亡き人より賜はりし大事の〳〵に候間、よしや誤を成さずとも勝手に變更はなりかたく候かしこ（はつ子）▼記者御答す、早速調べて見ましたが、貴女の原稿にも確に露緒子と御署名にならないのも多いやうで御座います露緒子、つゆ緒子、つゆ緒子、など御署名の原稿が記者の手許に在りますが、之はどうしたんでせう、何なら御覽に入れませうか、然し斯う云ふお小言は又記者の參考にもなりますから、今後とも御遠慮なく御申越下さい。

□落る涙に墨すりてつれなき君に參らせ候、此頃より度たび御文參らせ候も更に一度の御返しも賜らず、如何なる故にか、元より無學の私なれば最早厭せ給ひしにはあらずやなど、少き胸に思ひ痛ひつゝ姉樣したはしさの余り、朝な夕なを泣きつゝ過し居候、たゞ一言の御返し時かけて新上まゐらせ候かしこ

靜子より

やす子姉樣御許に

▼記者御答す、靜子姉の御怨みも然る事ながら、やす子姉にも何か御取込の事があつて、心にも無い御無佐汰をして居らつしやるのでせうそう一圖に御怨みにならぬやう記者からも御依頼致します。猶近頃記者の許へ參つた消息の中に「少きちいさき物怖ぢに胸ときめきて厭ならず女は弱きものに候かな云々」と御座いました。序ですから申上げて置きます。

□去年まで貴誌上て大層振つた吉田安子樣が今來青森縣立農事試驗場に御入學なされて一生懸命養蠶を御研究なされて居りましたが、不圖御病氣になつたのが次第々々につのり遂に昨日午前十二時三十五分頃に逝かれました、ああ私の親友なる安子樣は十八年の春を以て御一生となされました、誠に悲しう厶います▼記者曰、記者が去年の一月詩壇を擔當してからも兩三度詩を寄せられた事があつたと記憶して居る、其より以前は仲々振つて居られたやうである、が記者は詩想に豐富な處があるので何時も没書にしてしまつて、心密かに其秀でたる才能の他日大に發展せんことを期して居つたのでありましたが今はからず其訃音を聞いて、玆に謹んで哀悼の意を表します

東京帝國大學は日本百科大辭典の眞價を認めらる

日本百科大辭典發賣以來、各官公衙、學校、會社等を始め社會の各階級を通じて偉大なる賞讃を博し日夜間斷なき注文に接しつゝあるは屢ば報道せる所也而して又玆に東京帝國大學より分科大學用として本書八部購求の申込ありたる一新事實を報道するの機運に會せり。これ即ち最高の學府たる東京帝國大學によりて本書の有する眞價と其學界に重きをなす所以に關し最有力の保證を得たるものと云ふべし。此機會によりて責任を重ぜられたる執筆諸大家に深厚なる敬意を表し且甚大なる同情を寄せられたる江湖諸彦に此事實を告白するを得るは書肆三省堂の深く榮譽とする處也。

見本御申込次第呈上す

東京神田　振替一五九七

三省堂書店發行

時間と費用

三升の飯炊に僅か廿分間其費用は一錢以内

瓦斯厨爐

石油用

石油が蒸發して瓦斯となる

目錄進呈

薪炭兩用　富貴竈

各地特産鐵瓶湯沸

洋食器

食卓

用品

東京淺草區三間町一町目淺草橋際

阿部彦四郎商店

電話下谷一九二三番

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂

電話下谷特九六五番　一二二四四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

俳句

内藤鳴雪選評

天
紅梅に聞へば小琴の答かな　京都　露緒子
評　神風もなまめきそめ

地
野の中に霞みて人と語りけり　下野　黒須菊子
評　仙客か戀人か

人
あはれなる春を彌生の狂女かな　東京　芳賀りゆ
評　はふる雛や失せて

佳什

人力に梅のせてくる男かな　京橋　武田つる
鶯や松原すぎて竹林　長門　鶴田良子
打仰く不二まだ白し梅の花　下野　黒須菊子
原句　不二また白し
家は皆低う見えけり冬の月　北海道　五十嵐やす子
原句　家作りの
春風に狂うてをかし凧　三重　莊司種子
原句　狂うもおかし
春風に名所めぐるや二人つれ　岡山　西村長子
原句　名所めぐる
公園の草皆枯れて返り花　神田　栗山てい子
原句　つゝじも枯れて
梅咲て今朝めづらしや鳥の影　東京　鈴木榮子
原句　今朝めづらしき
燒芋を餌にして讀書かな　大分　桂木靜子
大井川橋長〳〵と霞みけり　岡山　西村長子
山遠く湖近く時雨けり　青森　竹林秋子
原句　遠き山
春雨に濡れたる夜も哀れなり　東京　中山文子
原句　夜濡れたる恨かな
彈き初めの琴に笛吹く閨あり　京都　野口百合子
朧の月のして鏡の櫻かな　岡山　坂田元子

▲品さだめ

▲新宿から九段への電車で婦人世界を讀んでるのは能く見掛けるが、近頃では時々實業之日本を開げてる若い女もある▲婦人くらぶ　七八年も丸髷で暮した婦人が束髪になつたやうな雜誌だ、高尚な處もあらが何處か落付かぬ、然し紙質は斯界での白眉▲女子文壇　體裁は好くなつたが、も少し所謂大家のまとまつた物を載せては如何だらうか▲婦女新聞　勉強してる處は見える、それに廣告欄も少し色めいて來たやうだ▲女の世界　何んと云つても手に入つたものだ▲少年世界▲日本少年　片や小常陸、片や足立山▲少女の友▲少女世界　少女には前者の方が懇切であるが、後者には小波の叔父さんが控へてる、尋常六年生にどつちが好いと聞いたら、どつちも好いと答へた、妄言多罪（かしは木）

新體詩

一等　青森　竹林秋子

胸の海――怒れる濤、寄せては返す
心の石垣崩れんとす。
胸の海――怒れる濤、寄せては返す
梶無し小舟沈まんとす。
目ざすは何處ああその日花の木蔭に
見し夢か
胸の海――怒れる濤、漕げど〳〵肉
はゆるみて。あな悲し舟は朽なむ。

評　着想尤も佳

三等　東京　山本富子

春風立ちて窓のへに
花の香ほのにたゞよひぬ
ふすまもれ來るさゝめきの
聲にも春はこもれるを
かりそめならぬいたつきの
床の二年　あな悲し
たのしかるべき昨日けふ
うたて涙の種おほき

評　新しき歌にはあらねど、陳からぬ書振りにこそ

秀逸

雛祭　廣島　金原なを子

銀燭あかき奥殿に
長久に睦び給へと
雛のふたりをことほぎて
捧ぐる御酒の香ぞたかき
遠からぬ日に我もまた
今日咲く花の桃のごと
紅のぼる耳にして
「雛」よの呼き聞くならむ。

評　秀逸中の秀逸

立春　横濱　鈴木まつ子

筑波の峰は雪あれど
水もすみたる墨田川
春たつけふは舟人の
掉すさ影も長閑なり

評　選者の敬愛する山、筑波根を詩に引きたまひしが殊にうれしく。

○　東京　上田トキ子

麗かなる夕日光を爛爛と地になげぬ、
木々の梢を渡る風　桐の葉影を椽に搖がせて
端居の人の瞳に映しぬ。

評　聲調整はざるは遺憾なれど、着想は面白し、
又曰　氏名住所を明瞭にせざるべからず、

雛祭　因幡　田中八重子

ほゝゑむ空も春霞
さくらの雲のながれては
指折りし手の今日解けし
少さき妹、うれしげに
右手にかざす桃の枝
蓬の餅にしたしみつ
ひれもす暮す雛の前

評　佳作、なほ添削したる處を能く會得せられたし。

海　横濱　板倉かずえ

深き靜寂潮を領して　不動の海原靜かに眠り
舟人は憂愁の眠をあげて　滑かなる水平線を見廻す
風は四方に吹き默して　死の如き靜寂物凄く
見渡す限り遠く〳〵　眼を遮る一波だになし

評　海の夜のさま、よく歌ひ現はされたり。

宮崎　京都夷川堺町　宮崎タンス　電一八二〇番　箪笥店

内科専門　杏雲堂醫院　神田區駿河臺　電本一六六九　院長醫學博士　佐々木政吉

生徒募集　規則書入用の方は郵券二錢送れ
◎本科　◎裁縫專修科
私立東京家政女學校　東京市牛込區新小川町一ノ五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話(特)本局六七三番 電話本局四九八番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
小口當座預金 同日歩 壹錢壹厘

御扇子
愛國婦人會御用達
京都寺町五條下ル東側
御影堂 持阿彌

●まち針をかねた村島かけ針は使て危けなく體裁もよく丈夫です
賣捌所は各針店學校用品店に請賣す御使用を願上候
發賣所 東京市本所區緑町二の二八 村島英

腦神經精神病科
病室清新 診療確實
東京龍戸町 電話浪花二五五二
加命堂腦病院

產科婦人科專門 診察毎日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八
岩田病院

神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)
内科病特に腦脊髓神經疾患
峰内科醫院
院長ドクトルメヂチーネ 峰秀世

内科一般 午前宅診 午後往診 板垣亨
東京神田美土代町三丁目十七番地 電話本局貳千九百七十番

●外科 午後往診 夜間診療
本郷區元町一の十四(淨水地西南隅)
醫學士 三原新太郎

◎移轉廣告◎
今般井上東京眼科病院跡へ移轉し病室並產室を設け入院及外來の診療に從事す
產婦人科 女醫 鷲山彌生
小兒科
内科部長 醫學士 武智基造
東京麹町區飯田町四丁目卅一番地
東京至誠病院(電話番町二二五七)

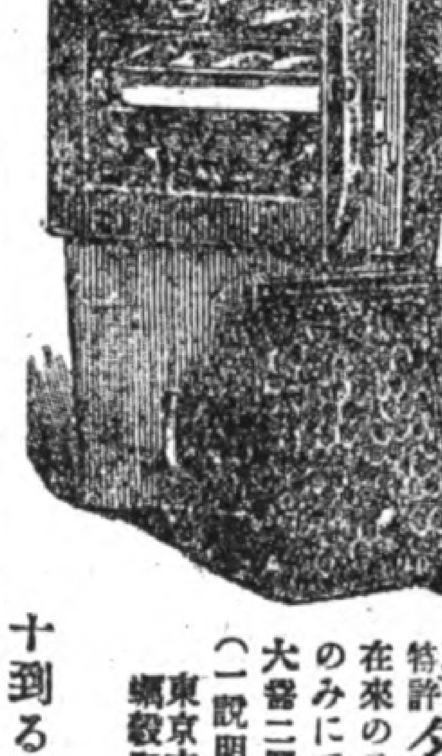
院長 醫學博士 榊順次郎 (婦人科產科 毎日午前診察)
副 醫學士 久保徳太郎 (婦人科的外科 外國留學中)
副 醫學士 田代謹二 (婦人生殖器病 泌尿器病及内科一般 火木土午後診察)
婦人科產科榊病院
●施診火木土午後一時至二時
麹町三番町三三(電話番町三九五)

ボアー マフ
羽蒲團 膝掛
御婦人小兒用帽子色々
手袋靴下類
リボン造花
西洋小間物
牛込神樂坂下
朝日堂
電番一六九九

四月一日より
●第十七回新柄陳列會
○懸賞課題光琳式明治模樣圖案陳列
○寄せ切れ見切反物大賣出し
●兒童博覽會
右當店内に於て盛大に開會致候間御誘ひ合はされ賑々敷御遊覧被成下樣奉願上候
東京日本橋
三越呉服店

色白く艶をだす
松澤ホーサン石鹼 (大形 廿錢 小形 十錢 新小角 十錢)
●近來類似品あれば御買求の節は上部の商標に御注意を乞ふ○市内賣藥小間物化粧品店にあり
東京本石町四 松澤常吉

家庭の重寶
世界好評



專賣特許 名和式蒸燒器(一名テンピ)
在來のテンピと異り頂上に火を要せず焜爐の火力のみにて輕便迅速に和洋割烹に最適當の器なり、
大器二圓廿錢 中小二圓廿錢 器器一圓七十錢
(説明書往復はがき)
東京市日本橋區蠣殻町二の一五
名和商店
電話浪花一七七 振替貯金一〇二五四
十到る處(金物店洋食器店)にあり

博士シアラー原著 文學士皆川正禧譯述
(最新刊) 淑女の美徳
總クロース上製▲定價金五拾錢○稅金六錢▼
全卷章を分つこと廿九說く所委く斬新且適切にして趣味に富み而も譯文の流麗なる等婦女の最好讀物として凡ての要素を具備す

三月三日發行(六卷)第十一號要目
家庭の友
家庭と新聞
其一……安部磯雄
其二……向軍治
其三……宮田脩
其四……富士川遊
金錢に關する子供の仕付方
(一)……三井久次
(二)……星常子
(三)……某婦人
(四)……根本德子
(五)……岸邊福雄
婦人の仕事(麻生正藏)▲技藝の今昔(藤野三郎)▲確かなる貯金法(佐治實然)▲經費半減の實例(井口丑二)▲雛祭(久保田米齋)▲女子教育(浮田和民)▲家政カード▲家政問答▲家計支出科目別▲食事の規則▲拾圓の賄費
●一冊六錢〇一年分郵稅共割引前金六拾錢
東京巣鴨停中 振替三五五番
内外出版協會

外毒豫防ゴム製
婦人衛生必携器
登錄商標
さよごろも
更夜衣

定價甲種一個金壹圓同貳個入壹圓七拾錢
乙種一個金七拾五錢同貳個入壹圓參拾錢
さよごろもはゴム製にて嶄新の發明御婦人方の衛生上必ず携ふべき要用の良品なりさよごろもを用ふるときはいかなる場合といへども黴毒淋毒下疳等の傳染することなく又子宮を疵傷する患なしさよごろもは懷妊を望む婦人は用ゆふからずこれを用ふるときは懷妊せざればなりさよごろもは月經の際經水の漏洩を防ぎ立居を便ならしむさよごろもの使用は本品を添て委細傳授すべし
○さよごろも入用の御人は御注文次第東京市内は郵送料にて御届申上候其他地方は郵送料一個に付十錢にて何國何處を問はず御郵送申上候
月やくはらひ通經丸本舗 さよごろも發賣所 萬珠堂藥舖
東京市兩國米澤町二丁目一番角
吉田安五郎
振替二二三〇六 電話浪花千百三十八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮内省御用達

最上醤油之元祖

上十

開業貳百六拾五年

釀造元 下總銚子町 濱口合名會社 振替貯金口座五〇貳壹番

發賣元 日本橋區小網町三丁目廿七番地 濱口吉右衛門

最上醤油

品質ハ ⊕印ト 少シモ 異リナシ

釀造元 千葉縣銚子町 濱口吉兵衛

社告！！

本誌掲載の廣告を見て當該廣告主と取引應答せらるゝ際は、其旨御申添被下度願上候 敬具

十一月三日 愛國婦人發行所

妾事禿毛にて種々藥を試しも効なく醫博士令夫人より寄藥を得薄毛も濃くなり生へざる所迄毛生し嬉さの餘り困る方に分與せしに三百有餘の禮狀を受け不思議のまゝ尚困難者へ告ぐ三錢郵券添御照會あれ……

東京々橋越前堀一ノ四 河村愛子

めりんす友染 右渡り唐さん 其外おたなや式格安物

東京日本橋[illegible]通り 赤のれん おおたなや本店 電話浪花四三四五

流行の季節

半ゑりは赤のれんに限る

本店 神田表神保町壱番 電話本局二八五三

出店 新橋博品館階上

女學校の教師が喜んで生徒に勧むる雑誌は婦人世界也

婦人世界

三月一日發行 四巻第參號

毎月一日發行 一冊拾五錢 郵稅一錢五厘 增刊共半年一圓五錢 同一年分二圓五錢 郵稅不要

◎日本婦人は如何に男子を感動せしむる力あるか（婦人界近來の大文字！）村井弦齋

◎姙婦の最も恐るべき病 伊庭學士

◎一家悉く冷水浴

◎顏を美しく見せるは白粉の塗り方一つなり

◎肺病の妙藥になる料理 弦齋夫人談

◎美髪法 岡村博士

◎造花を内職として通學せる女學生 小山正太郎

◎米國の令孃は如何に男子と交るか（森盛一郎）

◎田中宮内大臣の結婚に對する意見（增田義一）

◎賃仕事しながら弟と苦學せる實歷：川上きん子

◎日本に歸化せる感服すべき米國婦人 秀子

◎美人畫を描く苦心（鏑木清方）

◎歷史講談の實傳 妙沖尼

◎西洋人が始めて日本料理を食べた時の所感

◎跡見花蹊 棚橋絢子 頭相判斷

◎名流婦人十八歲の回顧

◎納豆を賣りたる孤兒が良家に嫁したる實話

◎女學校の教師が困る生徒の惡癖 宮田脩

東京京橋南紺屋町十二 實業之日本社 郵便振替貯金口座三二六番 （電話新橋八七四番） 賣捌全國各地書店

女學世界は櫻花の如く少女世界は梅花の如く眞に雙璧

女學世界

三月一日發行 九巻第四號 正價廿錢 郵稅二錢 前金郵稅十六冊三圓十二錢

△偉人の母より學ぶ可き貴き經驗 鳩山春子

△どの位の程度で生活すべきか 佐治實然

△教育が及ぼす感化の力 勝田孫彌

◎女子教育の方針 浮田和民

◎立派な婦人となるに就ての心の工夫 宮川壽美子

◎虎の門評判記 河岡潮風

△廣く世間を見ての生活 清藤秋子

△愛情を儉約する人の境遇 某實業家の妻

△噂に高きゴム輸入の令孃 △當世女房氣質

△會社員となる女の資格 △女書生の不平錄

◎寫眞技手の見たる婦人 覆面女史

少女世界

三月一日發行 四巻第四號 正價拾錢 郵稅一錢 前金郵稅共一ヶ年分十六冊一圓十六錢

◉口繪 なぐさめ 彩色木の花 彩色雛 雛祭

少女紀念會△誌友の面影△地方學校

△少女唱歌 桃の花 花袋 △幸福な少女 山脇房子 ●砌臺守の娘 ●繪畫：當選

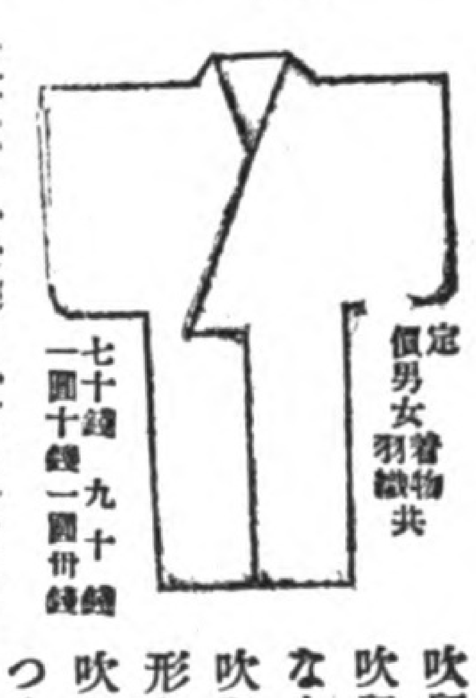
△お伽小説 はげ人形 小波 △少女の養生 後閑菊野 ●お婆樣の願 ●梅ちやん

△お伽倶樂部の雛祭 記者 △少女美談 八重子 沼田笠峰 ●花の展覽會 ●少女の歌會

東京日本橋區本町 博文館發行 振替貯金二百四十番

專賣特許實用新案

衣裳中入 吹留眞綿（すいだしとめまわた）



吹留眞綿は品質精良にして最も清潔なり

吹留眞綿は衣裳中入として至便にして經濟なり

吹留眞綿は字の如くすひださずして衣裳の形をよくす

吹留眞綿は普通眞綿二倍余の温さありて且つ丈夫なり

特約店

東京大阪三越吳服店 東京大阪京都高島屋吳服店 東京大阪白木吳服店 東京名古屋松阪屋 東京大阪京都大丸吳服店其他重なる吳服店にて目下盛に使用しつゝあり

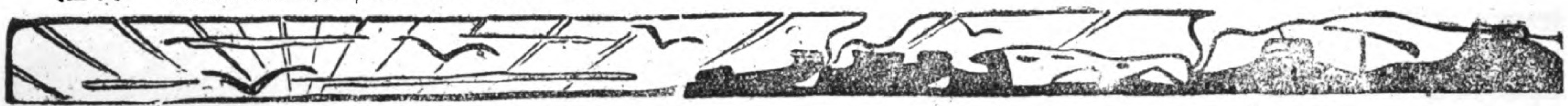
其外薄製御婦人用はだ着は着具合最も宜敷嚴寒より春の始め秋の終に適當品なり

◎御入用の方は特約店にて御買求め被下度候

東京銀座四丁目十七番地 大和屋綿店 電話新橋一七七六番

東京芝區西久保葺手町 さかいや 電話新橋一五四九番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



懸賞八千代黑染御定紋附販賣

黑染界の一大革新!!

▲白木屋は開店二百五十年前の其昔より黑染の點に就きまして研究に研究を重ねて居りましたが數年前に至り當店特設工場主甲州谷村町なる酉室為作氏が多大の苦心の下に化學上の一大發見とも申すべき八千代黑染なるものを發見致しました

▲八千代黑染は富士の雪解の水が甲斐の峽に流るゝ其美しき水を用ゐて染め爲せるものにして既に 長き邊りより種々御用命の光榮を荷ふに至りました

▲八千代黑染は化學的浸染法で御座いますから其染色は纖維の中心迄浸す處なく浸みますから布帛のあらん限り剝落褪色又は地質の痛み等は少しも御座いませぬ

▲八千代黑染は其効能に對して博覽會幷に共進會等より幾多の賞牌を以つて酬ゆられ天下獨歩の登錄濟(登錄番號七七五五)の製品であります

▲八千代黑染は白木屋の特賣品で他店では發賣致して居りませぬ

▲八千代黑染は斯くの如く御德用且効能のあるものでございますから今回汎く世に御紹介の爲懸賞方法の下に販賣致す事に取り極めました

販賣品目錄

品目	一號	二號
黑羽二重	二十圓	十七圓
黑縮緬	二十圓	十七圓
黑給子	十七圓	十四圓
黑・絽	十五圓	十二圓

懸賞品種類

等	賞品	個數
一等	一百圓(當店商品切手)	二個
二等	五十圓(同)	三個
三等	二十圓(同)	十個
四等	十圓(同)	三十五個
五等	五圓(同)	百個
六等	二圓(同)	三百個
七等	一圓(金巾莫地)	五百五十個
八等	五十錢(モス帛紗)	九千個

▲募集期間 二月十日より四月十日迄(但定數に達する時は期間中と雖も〆切ります)

▲御注文は 御指定品代價の三分一以上御申込書と同時に御拂込を願ひます

▲抽籤番號 は領收書欄内に記入致して有ります から之れは 大切に御保存を願ひます

▲品物發送 出來上り次第御申越順に發送致し殘金は其節引換へに願ます

▲抽籤方法 日本電報通信社に於て同社の廻轉抽籤機を以て同社員立會の上最も確實に執り行ひます

▲當選結果 四月二十五日發行の日本電報紙上に於て發表致します

▲賞品送呈 御注文品受渡終了後直ちに贈呈致し升

白木屋と八千代黑!!

東京日本橋
白木屋吳服洋服店
振替口座三一九七番

(注意)近來類似品を販賣する者あれば御買求の節は右瓶の形狀及び二頭の麝香獸に御注意を乞ふ市内賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候

●芳香の永く保つ點にて高評也

麝香獸印
ムスク香水
大瓶 壹圓　中瓶 六十五錢　小瓶 二十五錢

東京日本橋本石町四 松澤常吉

耳鼻咽喉 病診療
入院應需
淺草區向柳原町二丁目二番地左衛門橋通り
中村醫院
電話下谷二三〇

内科專門
杏雲堂醫院
神田區駿河臺 電本一六六九
院長醫學博士 佐々木政吉

岩佐病院
日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地
(電話浪花六九七番)
診察時間 自午前九時至正十二時

内科婦人科 院主 岩佐純
内科 院長 ドクトル 岩佐新
外科 醫學士 山村正雄
産科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

皮膚特効 美白新劑
チフリ化粧液

◎本品は西暦千九百〇六年の發明にして常用せば肌を軟密にし自然白色艶麗の美顏たらしめ「ニキビ」「ハタケ」其他「顏ノアレ」等に最も奇効あり

◎効能顯著なる爲め印紙貼用せり化粧水にして貼用せるは本品を嚆矢とす

◎東京市内は勿論到る處の賣藥小間物化粧品店にあり品切れの節は送料八錢(四瓶迄)相添へ本舗へ御注文あれば直送す

小瓶三十グラム入 金貳拾五錢 送料四瓶迄八錢

東京日本橋區本石町
日本一手販賣 松澤常吉

日本興業銀行
東京市麴町區銭瓶町(常盤橋内)
電話本局 一、二八〇〇番 三、三〇〇〇番 四一一番 (特)三七一番 一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目
一 擔保附社債に關する信託業務
一 有價證券其他貴重品等の保護預
一 有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一 地方債、社債、株式等の發行募集事務
一 各種の信託事務
一 國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一 國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一 法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一 定期預金、特別當座預金

最上醬油
キハク印
於臨路易博覽會 名譽大賞牌受領

キハク印醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七四

水原産科婦人科病院
○神田猿樂町十二番地
○電話本局千八百九番
○院内ニ産婆學校アリ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十二年三月五日發行（毎月二回五日廿日）
（定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵税不要）發行兼印刷人 山澤俊夫 發賣所 東京麹町區飯田町 愛國婦人會發行所 印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町秀英舍工場

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 京橋區南鍋町 一星社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區蠣殼町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 同區南鍋町 廣告社
京華社支店 神田須田町 本郷區湯島

大日本蠶絲會報

世界に無數の讀者を有し、啻に本邦の蠶絲業界のみならず、世界の蠶絲業上に大飛躍と大發展とを爲して社會の生産に貢獻しつゝあるものは宇宙界に本誌あるのみ特に毎號
天覽の寵を辱ふし且 皇室各殿下の臺覽を賜はる本誌の光榮たるのみならず亦將に讀者の光榮ならずや
本誌二月號は正に左の記事を滿載し世に出でたり

- 桑葉中の「ニコチン」 辻東京蠶業講習所技師
- 蠶病の病理 林東京蠶業講習所技師
- 乾燥の方法及原理 小松東京蠶業講習所技手
- 蠶絲業と日本國民の經濟 小松崎東京商業學校長
- 世人の知らんとする日樂社 山口日樂社長
- 事蹟に愛賞されたる大成社 加藤知正
- 婦人と養蠶 生駒つね子
- 何故にポッチ裏を勸むるか 町田高山社長
- 蠶絲業者先輩の招魂祭 重富三勇三
- 品種改良と卵形又昔 水野辰五郎
- 蠶業教育に關する談片 眞野實業學務局長
- 米國の養蠶は有望なるか 高木同伸社長
- 蠶種の雪國貯藏 横田東京蠶業講習所技師
- 桑園の改良は如何にすべきか 中山重兵衛
- 本邦蠶界の奇傑角田喜右作君 編者

飜て之を歐米の蠶絲業者に訪へ彼等は直に本誌を以て日本蠶絲業の反影なりとし多大の注意を拂ひ之を手にするに非ざれば世界の蠶絲業を談するに足らすと迄極言するに至れり、以て如何に本誌が重要視せられつゝあるかを知るに足る本邦の蠶絲業家にして本會報を讀まざるものは共に蠶絲業を語る資格なし

讀め……讀め……讀め……

一粒の汗をも有効に働かしめんとするもの遺利を拾取せんとするもの、一家の繁榮と國家の隆昌とを計らんとするものは讀め讀んで事實の上に向上せよ

若し讀まぬものは、讀まぬ時間と日數と月數と年數との自乘冪數乘數丈け終世に損失をするを忘るな

定價一册十五錢 一ヶ年分前金一圓七十錢
但し本會々員は 一ヶ年分前金一圓五十錢

女子蠶業講義録

本會が時勢の要求に應じて立ち女子蠶業教育の欠陥を補ひ以て聊か邦家の蠶絲業に貢獻せんとせる本講義録は愈々去る一日其初號を發刊せり

第一號には下記學科の外口繪には東宮妃殿下御肖像及蠶絲御奬勵の御歌（小野鵞堂先生筆）並に本會富山支會八尾婦人部員綿製造の狀況を挿み更に本多外山辻三講師の面影をも挿入せり

學科及擔當講師氏名

學科	所屬	學位	氏名
蠶業通論	東京蠶業講習所長	農學士	本田岩次郎
養蠶法	東京蠶業講習所技師		土屋泰
	東京蠶業講習所技師		横田長太郎
	東京蠶業講習所技師		荒木武雄
桑樹栽培法	東京蠶業講習所技師	農學士	辻暢太郎
	農商務省技師	農學士	明石弘
蠶體生理論	東京農科大學助教授	農學博士	外山龜太郎
蠶病論及消毒法	東京農科大學教授	理學博士	佐々木忠次郎
	東京蠶業講習所技師	農學士	林驛作
顯微鏡使用法	京都蠶業講習所技師	農農士	石川準太郎
製絲法	東京蠶業講習所技師		石居一郎
繭蠶種生絲審査法	京都蠶業講習所技師	農學士	川島勝次郎
	生絲檢査所技師		今西直次郎
屑物整理法	東京蠶業蠶習所技師		町田穰
蠶業法規	東京蠶業講習所技師	法學士	坂本家則
野蠶論	京都蠶業講習所長	農學士	石渡繁胤
家事經濟	東京女子高等師範學校教授		喜多見佐喜
育事及衞生	前東京府女子師範學校教諭		中島よし
裁縫法	東京女子高等師範學校助教授		神田順
料理法	大日本割烹學會長		石井泰次郎

本講義録の講習期間は自明治四十二年三月至仝年十二月 講習料本會々員は男女に拘はらず金二圓會員外三圓にして一時前納のこと

本講義録は各專門大家が熱血を注げる過去事蹟の花を集めたるものなり
本講義録は言文一致體にして特に總振假名を附したれば誰も讀み得べし
本講義録は開闢以來の蠶絲業界の精華を集めたるものなり
本講義録は特に講師の小照を掲げたれば親しく謦咳に接して學ぶと異ならず
本講義録は男女を問はず讀むべく、讀みて最近の學理と實地の調和とを開くべし
本講義録を手にして飼蠶に從事せば麗々たる良繭得らるべく、豐作亦期して擬なし
本講義録を手にして製絲に從事せば絢爛雪を欺き强力艦を繫ぐに足る絲を製し得べし
戊申の大詔は勤儉産を治むべきを諭し賜ふ、如何なる産業が現代の日本に必要なる乎蠶絲業
如何なる産業か女子に適切なる乎……蠶絲業……本講義録の誕生豈故なしと爲さん哉

發行所 東京市神田區錦町三丁目十八番地 電話番號本局一四七三
大日本蠶絲會

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會記事

本部近況

□**評議員會の日取**　本月の評議員會は來廿四日(第四水曜日)本部に於て開催す

□**二月の評議員會**　去月廿四日午後一時本部に於て開催、主として本年度總會に關する諸件を議し、午後四時閉會せり、當日の出席者は左の如し。

岩倉會長、近衛、毛利、岡部各理事、東郷、井伊。本莊。戸田、原口、濱尾高木(富子)松村、關、保利、堀、大谷龜井、高木、棚橋、中井、山脇、松崎江木、有島、三輪田、三井(壽天子)、下岡、淸水、本郷、渡邊、仁杉、大久保以上各評議員

□**本年度總會**　來四月五日(日曜日)午前十時日比谷公園内に於て開催する事に確定し、其旨本部より各支部に對し通牒を發せり。

□**寄附金披露**

一金百圓也　東京男爵　堤　正誼氏

右は先般令夫人常子氏逝去せられ、其遺志に依て寄附せられたり

一金五拾圓也　福井　土屋ふさ子氏

一金拾　圓也　同　田波ふじ子氏

右は客年本部基本金として寄附せらる、

□**愛國義塾**　目下牛ヶ淵本部構内に新築中なる遺族救養所は、今般愛國義塾と稱する事となれり。

●地方に於る奥村刀自法要彙報

▽京都支部△

京都支部にては二月五日午後一時より支部樓上に於て故奥村五百子刀自の三週年法要を營む、當日參拜の職員並に會員五十餘名にして大谷派本願寺より錄事藤岡諦了、同楊川惠順、法務局錄事鈴木秀見、仁科津梁、柿山玄成、御瀧知海、本多良明、河邊賢雄、首藤廣宣、森口實吉の諸師出席總禮伽陀(先請彌陀入道場)無量壽經、短念佛、和讃(至心信樂欲生)回向文(願以此功德)總禮の順序に莊嚴なる法要を勤修し法要終りて支部參與木村匡氏の講話あり四時散會せり

▽岐阜支部△

二月五日午後大垣別院に於て故奥村五百子刀自の三回忌法要を愛國婦人會安八郡幹事部主催となり執行せり、當日參拜者は刀自遺族敏子女史を始として員會一同其他金柳吉次郎、服部傳吉、槌谷祐七の諸氏佛教青年會代表者及び靜岡縣より特に來垣せし金原明善翁子息明德子夫人其他數百名にして本堂內式場は百事莊嚴を極め本尊前に靈位並に刀自眞影を安置し傍に故女史生存中緣淺からざる大谷派新法主より近時金森氏へ寄贈せられたる額面並に短冊揮毫等を陳列し展觀せしめ同幹部並に金森、服部、槌谷氏より餅菓其他各種の供物あり式は午後二時開始藤輪番の導師にて讀經中遺族敏子女史以下順次會員並に有志者一同の燒香あり終て藤輪番一場の法話あり次に金森吉次郎氏は愛國婦人會創立當時刀自と關係の經歷談あり同別院再建希望談に及び往年震災當時同別院燼餘の梵鐘龍頭殘塊天覽に奉呈せし奮因緣因談より東本願寺前々門跡が縣下三大川改修工事起工の爲意を注がれし事歷を述べ東本願寺と西濃との關係淺からざる旨を論じ又戸田布敎師の法話あり式後一同本堂前にて紀念撮影を爲し參拜者には當日供物並に本社施本部より寄贈せし施本數百部を頒ち一同散會せしは午後五時にて近來稀なる盛會なりし

支部近況

▽廣島支部△

二月十五日午後一時廣島市寺町眞宗本願寺廣島別院に於て故正七位勳六等奥村五百子刀自三回忌追弔法會を開く、當日は上田副支部長始め各幹事出席、宗像支部長差支ありて佐治評議員、支部長の弔詞を代讀し、宗像顧問の祭文は原事務官補之を代讀したるが、同日會員の參集する者一千餘名導師は別院輪番三谷敎應師にして結衆十二名列席、行事鐘、樂、諸僧入道場、登禮盤、三寶禮、供養文、敬禮段、普爲句、樂(會員燒香)勸請段、經段念佛、三禮、樂、弔文、樂、諸僧退出、の順序を以て嚴かに執行、後三谷輪番の法話を始めとして其他二席の法話あり、來會者一同に對して茶菓の饗應をなし午後六時全く散會せり

▽京都支部△

□**和洋音樂大會**　當支部にては會務擴張費補充の目的を以て去一月十七日午後一時六時二回市議事堂に於て和洋音樂大會を開催せしに非常の盛會にて入場者晝夜を合せ貳千貳百四十八名の多數を見たるは、全く職員其他の諸氏が熱誠以て盡力斡旋の結果に外ならず當日の收支決算左の如し

收入

一金壹千貳拾六圓四拾錢

内

金六拾參圓貳拾錢　寄附

金九百六拾參圓貳拾錢　入場券料

支出

一金五百七拾五圓參錢五厘

内

金拾五圓　會場借用料

金拾參圓八拾七錢　設備費

金貳拾八圓參拾錢　裝飾費

金四拾七圓五拾錢　印刷費

金參百參拾八圓　演奏者其他謝儀

金五圓參拾參錢　消耗品費

金拾圓　樂器借用料

金貳圓七錢五厘　郵便切手代

金貳拾貳圓貳拾錢　雇人力車賃

金參拾參錢　運搬費

金貳拾九圓拾八錢　演奏者其他辨當代

金四拾八圓九拾六錢　各雜貨店ニ於テ取扱ヒタル入場券手數料

金拾四圓貳拾九錢　雜費

差引益金

一金四百五拾壹圓參拾六錢五厘

▽福島支部△

□**若松市幹事部**　二月十日午前十時新年會を兼ね第一回會員總會を開催す、當日支部長は荒川評議員及佐藤事務員を隨ひ臨場、式場には歩兵第六十五聯隊將校集會場を充用し、來會者は武富中佐各大隊長各副官及淺岡中學校長北會津郡小松幹事部長同市在住の飯島武富兩評議員幹事十二名會員及遺族廢兵等三百八十名出席、松平幹事部顧問開會の辭を述べ、次に支部長は現今婦人會の狀況及將來擴張すべき事由次に武富中佐は婦人會と軍隊、軍隊と家族との關係を述べられ、淺岡中學校長には婦人の天職等に付、何れも熱誠に口演せられたるを以て大に感動を與へたり次に遺族廢兵總代の辭終て竹田幹事部長閉會の辭を述べ、引續き蓄音器琴三絃オルガン等の余興あり、一般來會者には壽し及茶菓を饗し、遺族廢兵には特に支部長より菓子折を贈與し、終て各將校の案內にて營內縱覽の上、一同撮影し歡を盡し散會したるは午後五時頃なりき

愛國婦人會會員女子人口比較表

明治四十二年一月末日現在

支部名	特別會員 終身	特別會員 年賦	特別會員 計	通常會員 終身	通常會員 年賦	通常會員 計	會計	卅六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員比例	受助員
山口	三〇六	九三九	一、二四五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
石川	五三四	一、四五三	一、九八七	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
山形	一七一	八二四	九九五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
廣島	五一一	二、〇五一	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
愛知	四九一	一、一〇七	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福岡	三一七	二、五八四	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岡山	二五三	八八九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
兵庫	五六〇	一、七〇五	二、二六五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
京都	四六五	二、〇六〇	二、五二五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
島根	一〇六	三四五	四五一	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
神奈川	四〇八	一、五四三	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
愛媛	一〇一	四六八	五六九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
富山	一二四	九五一	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
北海道及函館	五九六	二、九五四	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
香川	二一六	九九九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
熊本	二八五	二、六三五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
青森	二二二	一、一六〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮崎	八四	四五九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
秋田	二二六	六七〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
群馬	二二五	一、五四六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
長崎	一、二六九	二、五二二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
靜岡	一二二	六三四	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
佐賀	一三三	七八二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福井	一四四	七〇七	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大分	一二四	七三〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
栃木	一八六	七三七	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮城	一九五	二、二七二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三重	一一四	五一九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
長野	一八四	一、一三七	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東京	一、〇二九	七、八二五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鳥取	五二	二四八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岩手	八七	五八五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大阪	六五九	二、七八六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
奈良	四六	二五三	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
德島	八二	二八五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福島	二七七	一、〇六五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
臺灣	九二九	九四四	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
高知	五七	二一二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
千葉	一七一	八五六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
滋賀	一三五	五六一	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鹿兒島	一三八	一、〇九八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
茨城	六五	四五九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
山梨	五九	五三八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
新潟	四五〇	八八四	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
埼玉	八五	二九六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
和歌山	六二	二七七	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岐阜	一一四	六九二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
沖縄	四五	三一七	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
韓國	—	一、二一二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
海外	二一五	四七	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	一五、四二九	五五、八〇七	[illegible]	三二、六二二	六六四、〇六九	[illegible]	七六五、九二五	二五、一三五、〇四〇	[illegible]	一、六二二

備考

(一) 支部の配列は會員比例數の最も多きものより順次配列す

(二) 北海道及函館の兩支部會員數は合算して揭載せり而して函館支部會員數は特別五百三十六人(終身七十一人年賦四百六十五人)通常千八百四十八人(終身八十一人年賦千七百六十七人)にして他は北海道支部會員數なり

(三) 韓國支部の報告は終身會員年賦會員の區別なきに付假に年賦會員の欄に揭載せり

(四) 海外委員部の內米國合衆國桑港及シヤトル並に布哇國ホノルヽは報告未着に付之れが調査を缺く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▽本　部△

□救護に對する禮狀　本會の救護に對し遺族癈兵よりの感謝狀は、時々一括して本誌へ掲載し來りしが左に採錄する者も亦其一なり。

拜啓時下寒冷の候先以て御尊下益々御淸祥に被相渡恭賀此事に奉存候、陳者先般は金圓御下賜の榮を蒙り毎々の御厚情家族一同雀躍仕居候、乍他事安に賜て謝し奉り候草々不宜、

尙々早速御厚禮書差上べきの處大延引仕候段休て願上候

明治四十一年十二月十六日　元吉興野

岩倉久子殿

□擴張部　擴張委員八田一精氏は會務發展上打合の爲、去二月廿八日群馬支部へ出張、翌廿六日歸京し、又同廿七日茨城支部へ出張、翌廿八日に歸京したり因に群馬茨城兩支部共に夫々擴張に着手する由、

□有功章贈與

臺灣支部新竹幹事部

一等有功章　元幹事部長　里見娥子
同　上　元幹事部顧問　里見義正
二等有功章　小澤武憲
三等有功章　高比良三登志
同　上　別府兵太郎
同　上　佐藤末男
同　上　藤崎濟之助
同　上　古賀文也
同　上　三谷富五郎

右功績に依り各頭書の通り贈與せられたり。

▽長野支部△

□會務擴張　同本支部にては本年授產場を建築して遺族及癈兵中生活困難なる者に對して職業を與へ、猶近き將來に於て會員約三萬五千人に達せしむる計畫にて、目下各幹事とも熱心に擴張しつゝありと因に同支部最近の會員一覽表は次の如し。

愛國婦人會長野支部會員一覽表　(明治四十一年十二月廿八日調)

郡市別	特別會員 終身	特別會員 年賦	特別會員 小計	通常會員 終身	通常會員 年賦	通常會員 小計	合計	女子人口(百人止)	百人ニ付會員五人ヲ得ル數	全上ト現在會員ノ比較
南佐久郡	五	二一	二六	八	四八二	四九〇	五一六	三一、〇	一、五五〇	△一、〇三四
北佐久郡	七	四三	五〇	三四	八六四	八九八	九四八	四一、〇	二、〇五〇	△一、一〇二
小縣郡	一〇	七九	八九	八一	一、五〇一	一、五八二	一、六七一	七〇、三	三、五一五	△一、八四四
諏訪郡	五三	一〇七	一六〇	二二一	一、四一八	一、六三九	一、七九九	五〇、五	二、五二五	△七二六
上伊那郡	一九	五七	七六	七一	八七四	九四五	一、〇二一	六〇、八	三、〇四〇	△二、〇一九
下伊那郡	一九	七一	九〇	六八	一、〇二九	一、〇九七	一、一八七	六九、七	三、四八五	△二、二九八
西筑摩郡	五	二四	二九	一五	三六二	三七七	四〇六	二三、〇	一、一五〇	△七四四
東筑摩郡	一九	一六一	一八〇	二一	一、四〇六	一、四二七	一、六〇七	六五、四	三、二七〇	△一、六六三
南安曇郡	一六	八八	一〇四	九〇	九四七	一、〇三七	一、一四一	二六、五	一、三二五	△一八四
北安曇郡	〇	〇	〇	一六	五七一	五八七	五八七	二七、一	一、三五五	△七六八
更級郡	一八	五一	六九	六〇	一、一三一	一、一九一	一、二六〇	三九、三	一、九六五	△七〇五
埴科郡	八	二七	三五	四四	八四九	八九三	九二八	二七、九	一、三九五	△四六七
上高井郡	九	一七	二六	四五	六八三	七二八	七五四	二六、〇	一、三〇〇	△五四六
下高井郡	六	二三	二九	五四	九四〇	九九四	一、〇二三	三〇、二	一、五一〇	△四八七
上水内郡	九	二一	三〇	四八	一、三〇九	一、三五七	一、三八七	六一、七	三、〇八五	△一、六九八
下水内郡	〇	三八	三八	四	二八二	二八六	三二四	一六、九	八四五	△五二一
長野市	三三	一八一	二一四	一四	五四九	五六三	七七七	一九、〇	九五〇	△一七三
松本市	七	三九	四六	一二	三一〇	三二二	三六八	一六、二	八一〇	△四四二
計	二四三	一、〇四八	一、二九一	九〇六	一五、二九七	一六、二〇三	一七、四九四	六九八、一	三四、九〇五	△一七、四一一

備考
一、女子人口ハ明治四十年十二月調ニ依ル
二、最下段ノ數△印ハ朱書トス此ノ數ハ將來増加ス可キ會員ヲ示ス

△佐賀支部▽

三里村委員部　小城郡幹事部三里村委員部に於ては四十一年十二月十八日午後二時三里尋常高等小學校內に於て第二回總會を開く、支部よりは支部長代理として副長豐島外良子評議員熊谷ヨシミ事務員山村知次臨席、幹事部よりは荻原顧問荻原幹事部長、三上事務員參列せり、定刻に至り會する者百三四十名に及び盛會を極めたり、當村は卅八年十二月迄は會員僅か二三名なりしも卅九年に於て、同村長夫人陳內菊千代氏本會の主旨を翼贊し大に奮起する所あり、同年末には七十三人の會員を得、四十年四月十八日第一回總會を開き、尙進んで勤務に勉め同年末には百五拾名以上の會員を得るに至り今や會員總數百六十三名に達し、女子人口百分比例は拾二人五分余を示し、當支部內に於て第一位に在り之れ素より陳內幹事の熱誠なる勤務の効果なりと雖も亦村名婦人の誠意を以て本會の主旨に贊同したる結果に外ならずと云ふべし。

△富山支部▽

□下新川郡幹事部　魚津町分區に於ては去る十一月十九日會員總會開催、同日宇佐美支部長には加藤評議員並酒井草野の兩事務員を隨へ、午前十時着津、午後二時二十分第一鈴により小野分區委員開會の辭に併せて會務の報告をなし、次に佐伯同郡顧問は去卅七八年戰役に畏くも

皇后陛下より本會に對し、下し給ひし令旨を捧讀し、次に宇佐美支部長は癈兵野崎榮次郎外二名遺族島田のぶ子外四十八名に對し、見舞金を贈與し續て告辭を朗讀し、次に小野幹事は會員總代として答辭を述べ、終りて佐伯顧問には戊申の詔書に對し奉り婦人の心得及勤儉貯蓄の美風を奬勵せんことを演說し、次に草野事務員は本會の趣旨に關し一場の演說をなし、玆に三時三十分閉會を告げしが、當日は會員二百五十名及同郡內幹事並に來賓等百四十餘名の集合とて近來稀れなる盛會なりき

△京都支部▽

□松井郡幹事部　本年に入り第二回總會を二ヶ所に於て開催せり其狀況左の如し

明治四十二年一月廿三日分
一、日時、同年同月同日午後一時
一、場所、同郡園部村公會堂
一、當支部出張員副長昌谷推子、評議員河島末菊子、事務員室谷時康の三名なり

式次一、君が代唱歌奏樂　二、皇后陛下御令旨捧讀(三宅顧問)三、開會の辭(三宅幹事部長)四、事務報告及明治卅七八年戰役の際に於る行賞銀杯下賜御沙汰書披露五、本會長祝電朗讀(北部郡視學)六、支部長祝辭(昌谷副長代讀)七、幹事部長の答辭、八、閉會の辭(三宅幹事部長)九、皇御國の唱歌(奏樂)式終了

夫より務會に盡力せし三宅幹事部長外四拾五名に對し有功章又は賞品感謝狀を授與し、來會者には折詰の饗應あり、少時を經河島評議員の講演あり、來會者及遺族、癈兵を合せ三百有余名(來會者の主なるものは地方名譽職及有力者等なり)にして何れも大に感動せり、尙ほ餘興として彈琴數曲、大盤蓄音器の使用ありたり

同年同月廿四日
一、同時、同年同月午後一時
一、場所、同部須知町尋常高等小學校
一、出張員は副長中澤楠緒子、評議員河島末菊子、幹事木村かね子、事務員菅谷定與の四名なり

式次(前日の通り)

來會者は會員及遺族癈兵等を合せ二百名余にして本會々務に盡力せし幹事小泉富子此外二名に對し賞品又は感謝狀を授與せり、餘興は桃川燕園の落語及蓄音器の使用等あり、

以上の景況にして當日同幹事部現在會員七百二十名に達し尙追々入會申込あれば遠からず廿名に達せんと云ふ

東京裁縫女學校長渡邊辰五郎先生遺稿

高等裁縫講義

菊版五百五十頁
定價金壹圓貳拾錢　郵送料　東京市內金四錢　地方金八錢　淸韓臺灣其他金三十錢
豫約特價　金七拾錢

豫約申込者既に豫定の數倍に達したるを以て愈々印刷に着手せり特價日限(餘日無き)を以て此際至急申込まれたし

愛國婦人發行所

足袋販賣廣告

一足袋は愛國婦人會東京支部授產場に於て軍人戰死者遺族並に癈兵家族の裁縫したるものにて尤も丁寧親切に調製してあります又直段も格別安く販賣致します
一足袋の地質は特に吟味しあれば直段の安き割合に丈夫に出來て居ます故御求の上御驗を願ひます
一足袋は裁縫教師として都下有名の職人を雇入れ其監督の下に出來たるものにて形も好く又穿き工合の宜しき事は昨年來既に御使用の方々の間に好評を博して居ります
一足袋の種類は左表の外紺琥斯織、コール天、ありの外にシャツ袴下小兒胸掛(エプロン)西洋前掛等も調製販賣致します
一純白絹天足袋は美麗なる箱入てあります故御進物等には最適當と思ひます
一市內に限り十足以上は送料を申受ません

東京市麴町區飯田町九段坂下公園
愛國婦人會東京支部
授產場販賣部
電話番町五二〇　一、七四五　郵便振替口座　一五、一一四

足袋販賣價格略表

注意(御誂別製は壹錢以上増、踵縫目なし貳錢増、單足袋は拾より貳錢増、爪先三枚は貳錢五厘増、裏紋羽は壹錢五厘増)

種類	紺雲齋底	紺石底	白木綿雲齋底	白木綿石底	白キヤラコ木綿裏雲齋底	白キヤラコ紋羽裏雲齋底	純白絹天木綿裏雲齋底	紺キヤラコ木綿裏雲齋底
十文	廿九錢	三十錢	廿六錢	廿七錢	廿七錢	廿八錢五厘	五十錢	三十二錢
九文	廿七錢	廿八錢	廿四錢	廿五錢	廿五錢	廿六錢五厘	四十八錢	三十一錢
七文	十七錢	十七錢五厘	十五錢	十五錢五厘	十七錢	十八錢	三十六錢	廿二錢

○八文七分以上は半文毎に壹錢増

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣風俗人形

（總裁殿下へ愛國婦人會臺灣支部より献納品）

新郎　　新婦

主人　　男兒　　主婦　　女兒

愛國婦人第百七十二號附錄　明治四十二年三月五日（毎月二回五日廿日）發行　明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人永持德一　發行所　愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN